



爾大臣總
便等

凶

女

甲子年



十



特別
又 6
9339
2 (2)



又6
9339
2(2)

竹清藏

山中文庫



本
巻
の
下

甲斐の茶葉巻の下

南巨摩郡奈良田村より早川の水源にして井戸もあつたといふ
 と、現今奈良田湯島を村を合し奈良田と称す也と
 出也といふ一別にして此の茶葉巻を造る所は
 みろの湯を好むと下なる所に入るといふも奈良
 田は河合と云ふ人の名に因りて此の茶葉巻を造る所は北巨摩郡の
 也といふ也中巨摩の平村に接する白根諸山の頂上を以て信
 州駿河の二國に界し南の方湯島村といふ北中巨摩の茶
 葉の地に接り山脈重なり平地なく人家のあつたり茶葉に
 丁部北五丁程の地を南巨摩郡中の赤前と云ふ人の傳説
 に天保九年二年と云ふ説女皇法基尾山代郡奈良田より遷居

相成り元禄六年の春、丹波の後、都への命、しりとし、其の途、
年廿七、人、御宇を建て、春、皇々祀り奉り、と、忠、命、信、ま、に、
お、流、ち、た、と、甲斐國志に、と、某、貴、人の、任、命、せ、ら、し、也、を、し、入、り、
深、今、の、大、力、強、の、也、と、し、る、也、と、し、る、也、と、し、る、也、と、し、
か、か、代、の、御、宇、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
難、察、に、ち、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
せ、し、平、林、よ、し、馬、と、駕、籠、と、も、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
さ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
し、し、甲、信、よ、し、お、も、つ、る、事、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、

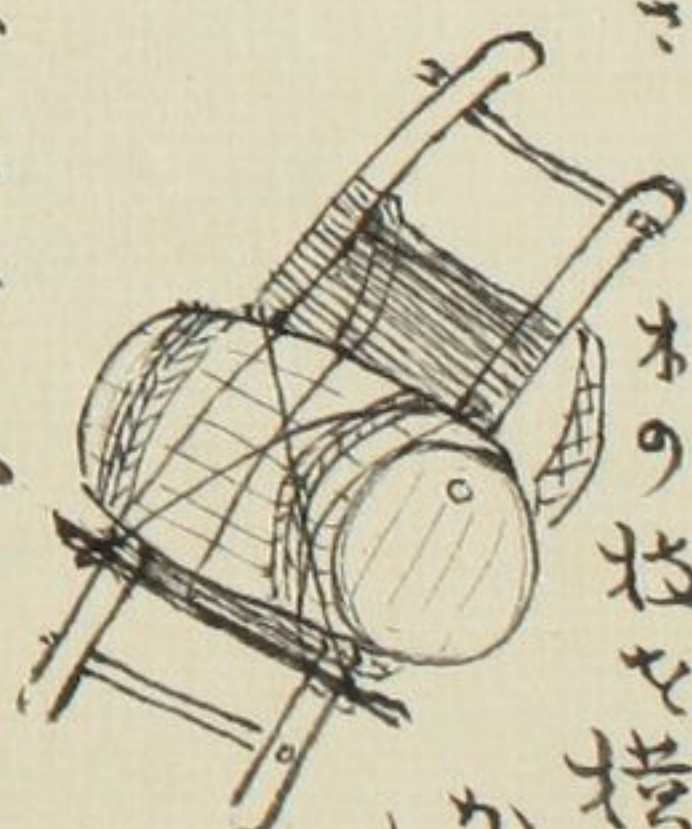
徳の御教に、しり、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
た、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
せ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
か、か、代、の、御、宇、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
難、察、に、ち、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
せ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
さ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
し、し、甲、信、よ、し、お、も、つ、る、事、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、



し、し、甲、信、よ、し、お、も、つ、る、事、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
難、察、に、ち、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
せ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
さ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
し、し、甲、信、よ、し、お、も、つ、る、事、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
難、察、に、ち、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
せ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
さ、し、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、い、り、
し、し、甲、信、よ、し、お、も、つ、る、事、に、お、も、つ、る、事、に、
い、ろ、宗、家、と、も、あ、れ、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、
甲、信、を、し、り、と、思、ひ、に、お、も、つ、る、事、に、

此の茶は、
 人の心を
 清くし、
 神を安んずる
 神妙なる
 薬なり。

此の茶は、
 人の心を
 清くし、
 神を安んずる
 神妙なる
 薬なり。



此の茶は、
 人の心を
 清くし、
 神を安んずる
 神妙なる
 薬なり。

此の茶は、
 人の心を
 清くし、
 神を安んずる
 神妙なる
 薬なり。



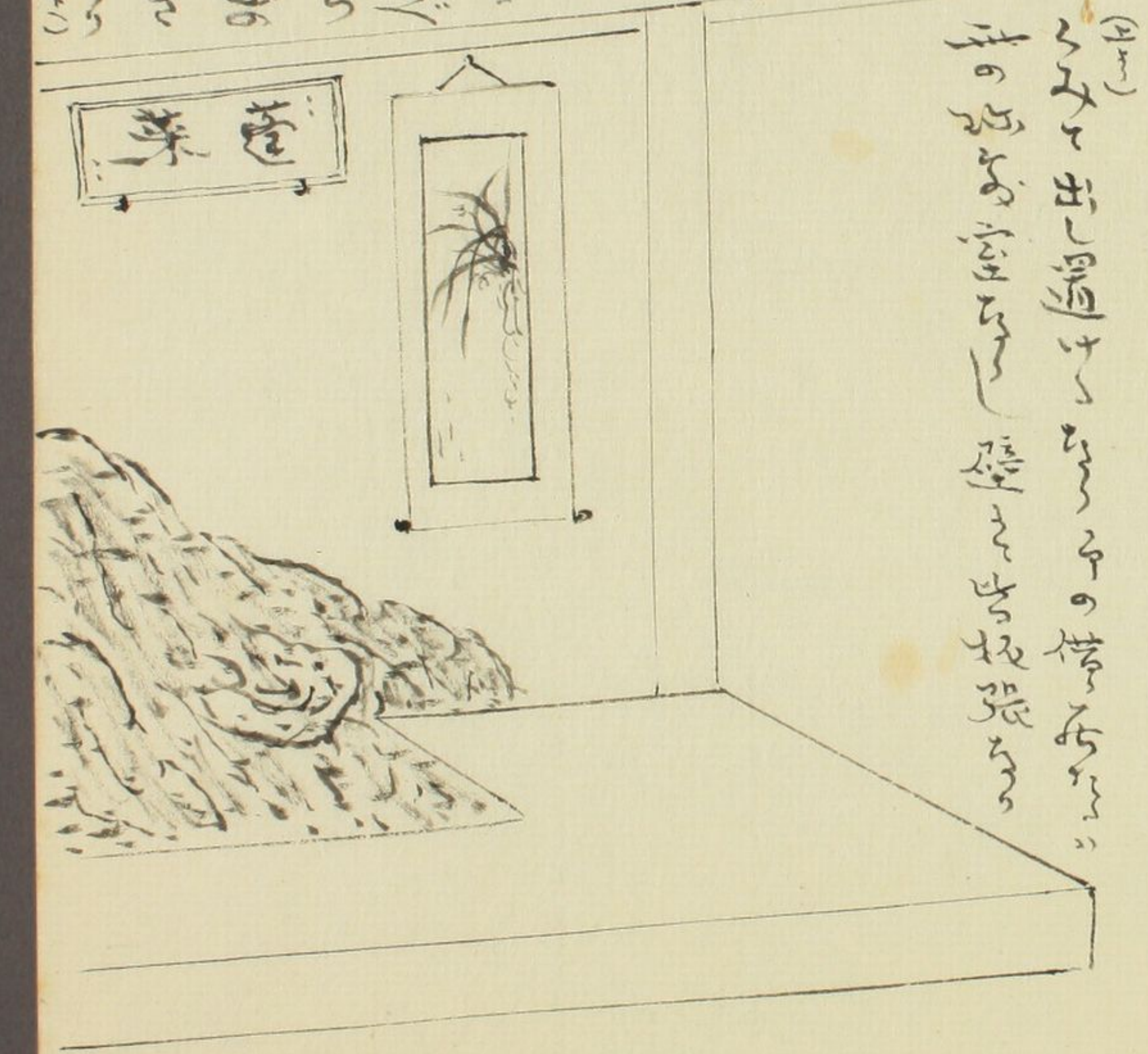
此の位に...
 天井を高く...
 鏡もかけ...
 掛け物と...
 かけ物...
 大石...
 大石...
 大石...

湯の...
 湯...

二座敷の...

この中...
 天井...
 鏡...
 掛け物...
 かけ物...
 大石...
 大石...

(110)
 此の...
 此の...



大正...
 大正...



此の位に...
 天井を高く...
 鏡もかけ...
 掛け物と...
 かけ物...
 大石...
 大石...

此の器は新倉大原野早川黒桂新宮の
 所産なり



此の器

此の器は新倉大原野早川黒桂新宮の
 所産なり

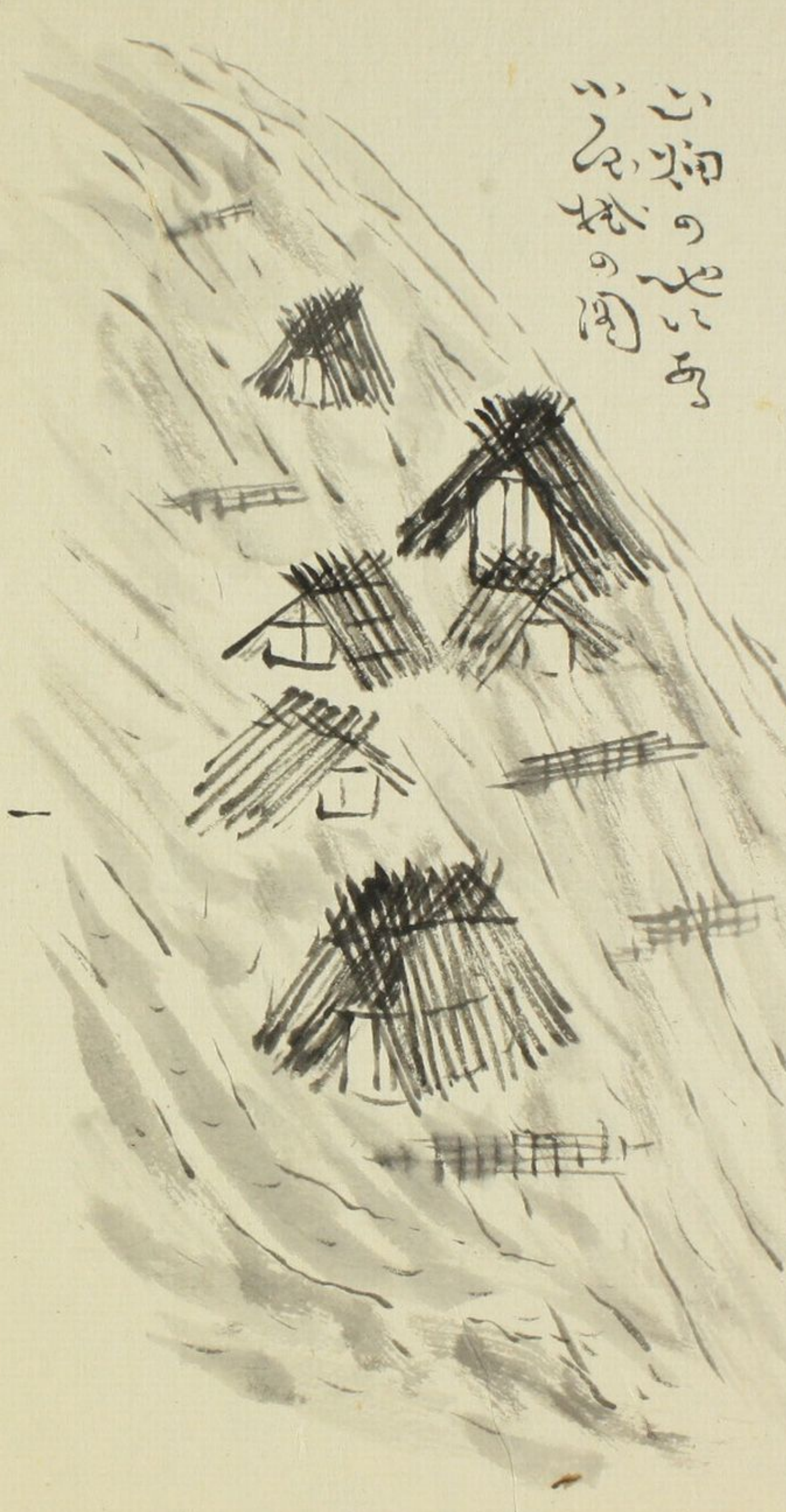
此の器は新倉大原野早川黒桂新宮の
 所産なり



此の器は新倉大原野早川黒桂新宮の
 所産なり

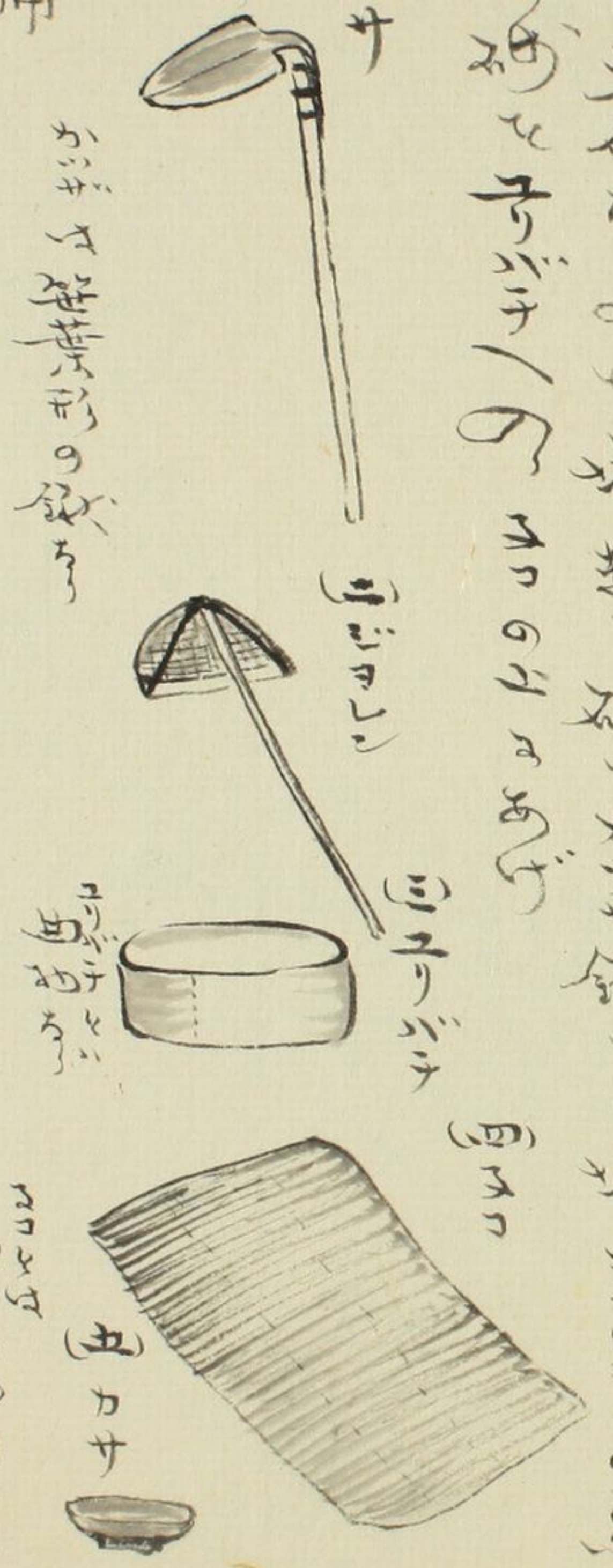
山田と云ふ所の木を焼く事をも焼く事をも山田と云ふ所の
 木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事
 と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の

山田の山田
 山田の山田



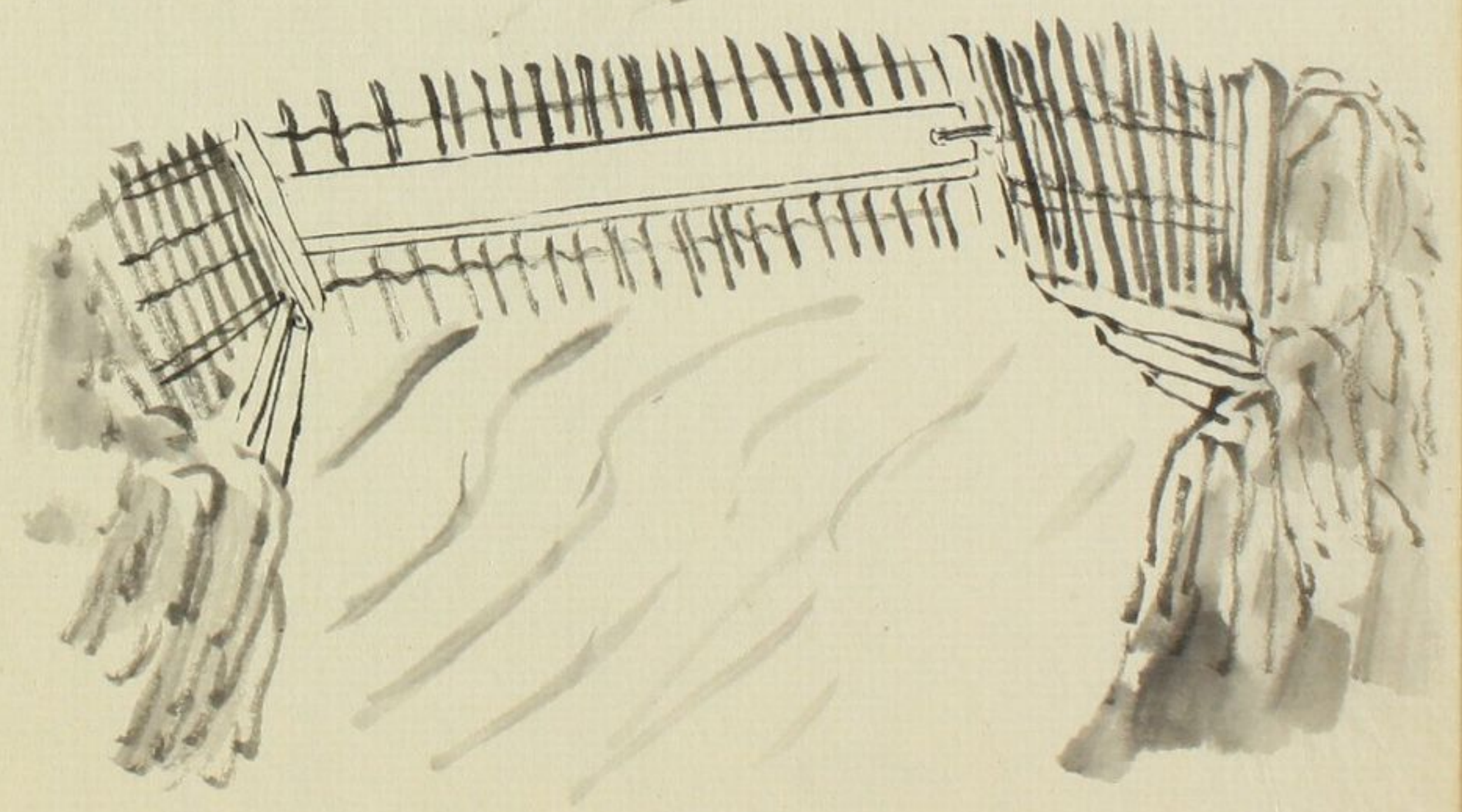
山田の山田と云ふ所の木を焼く事をも焼く事をも山田と云ふ所の
 木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事
 と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の

(三) 蒲

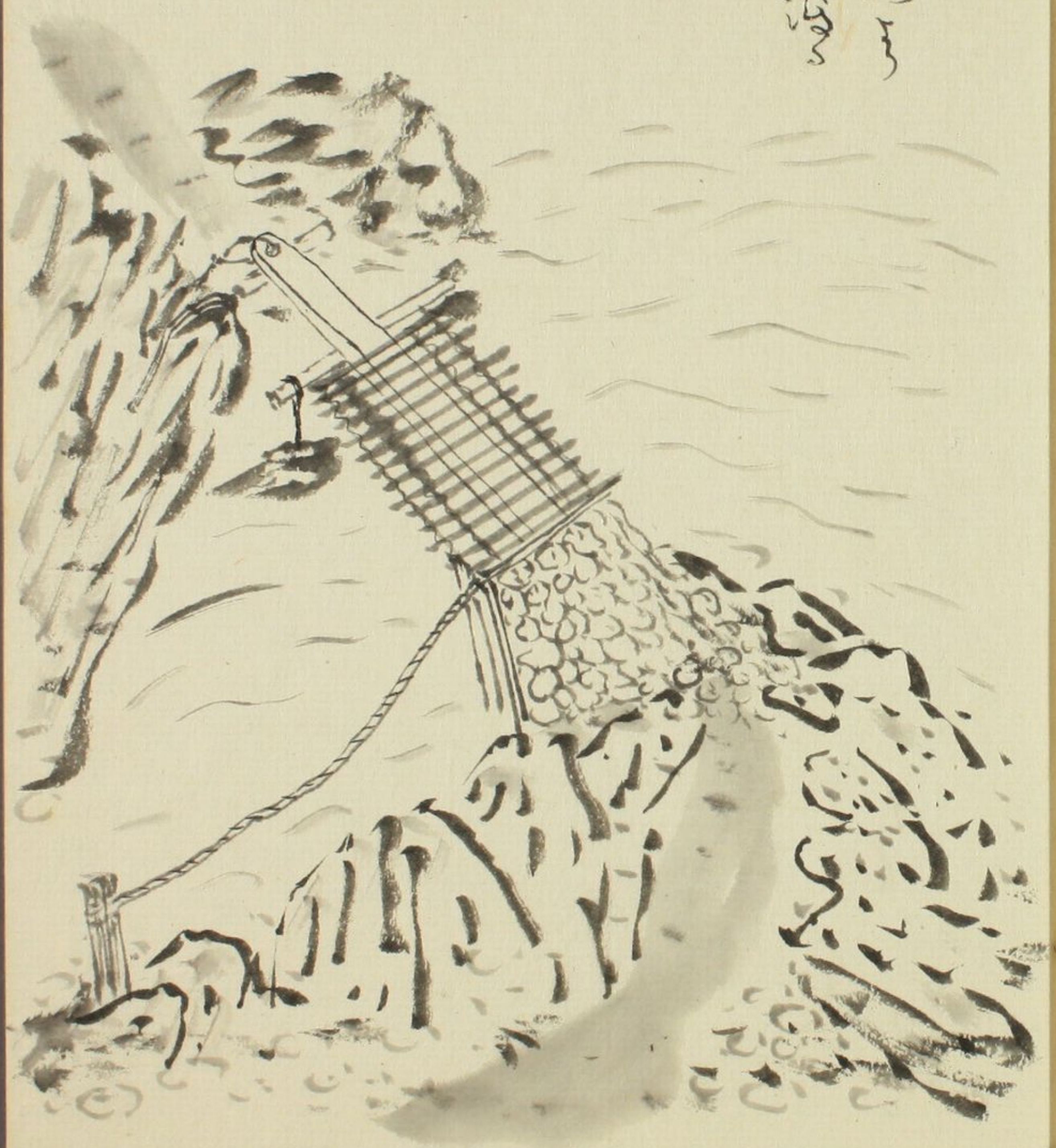


山田の山田と云ふ所の木を焼く事をも焼く事をも山田と云ふ所の
 木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事
 と云ふ所の山田と云ふ所の木を平や見事と云ふ所の山田と云ふ所の

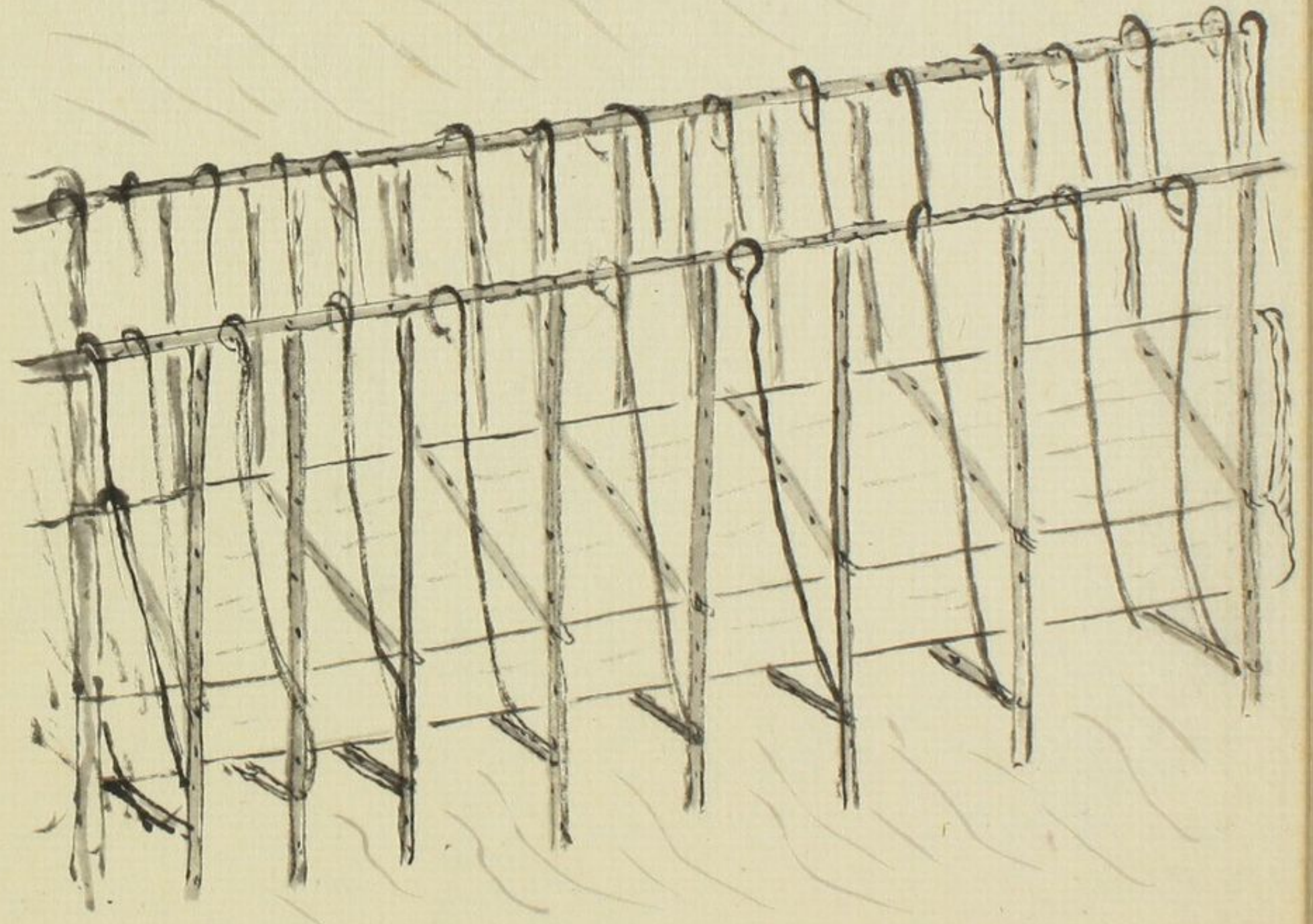
大正の田の橋
 早川に渡る川
 かりたつ
 丸木を橋に造
 るづるを編み
 其上に舟を載
 せのせ橋をの
 るころは大なる
 舟を丸木を
 支にかけ
 丸木を積み
 せ橋を造る
 しては
 舟を載せ



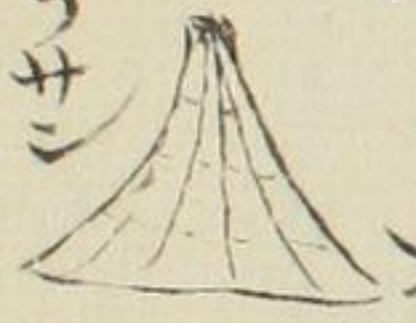
大正の田の橋
 早川に渡る川
 橋



茶の湯の茶室の入り湯の
 湯の場下内湯の湯の
 所のろり入掛り長サ
 七間の格なり大木の長サ
 五枚割と丸木の長サ
 七間の格の中へ入れ
 丸木の長サをさしつけ
 るるしぬのものを結い
 湯の湯のものをさしつけ
 丸木の長サをさしつけ
 るるしぬのものを結い



茶室の入り湯の湯の
 湯の場下内湯の湯の
 所のろり入掛り長サ
 七間の格なり大木の長サ
 五枚割と丸木の長サ
 七間の格の中へ入れ
 丸木の長サをさしつけ
 るるしぬのものを結い
 湯の湯のものをさしつけ
 丸木の長サをさしつけ
 るるしぬのものを結い



茶室の入り湯の湯の
 湯の場下内湯の湯の
 所のろり入掛り長サ
 七間の格なり大木の長サ
 五枚割と丸木の長サ
 七間の格の中へ入れ
 丸木の長サをさしつけ
 るるしぬのものを結い

本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、



二十五又一及び二
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、

本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、

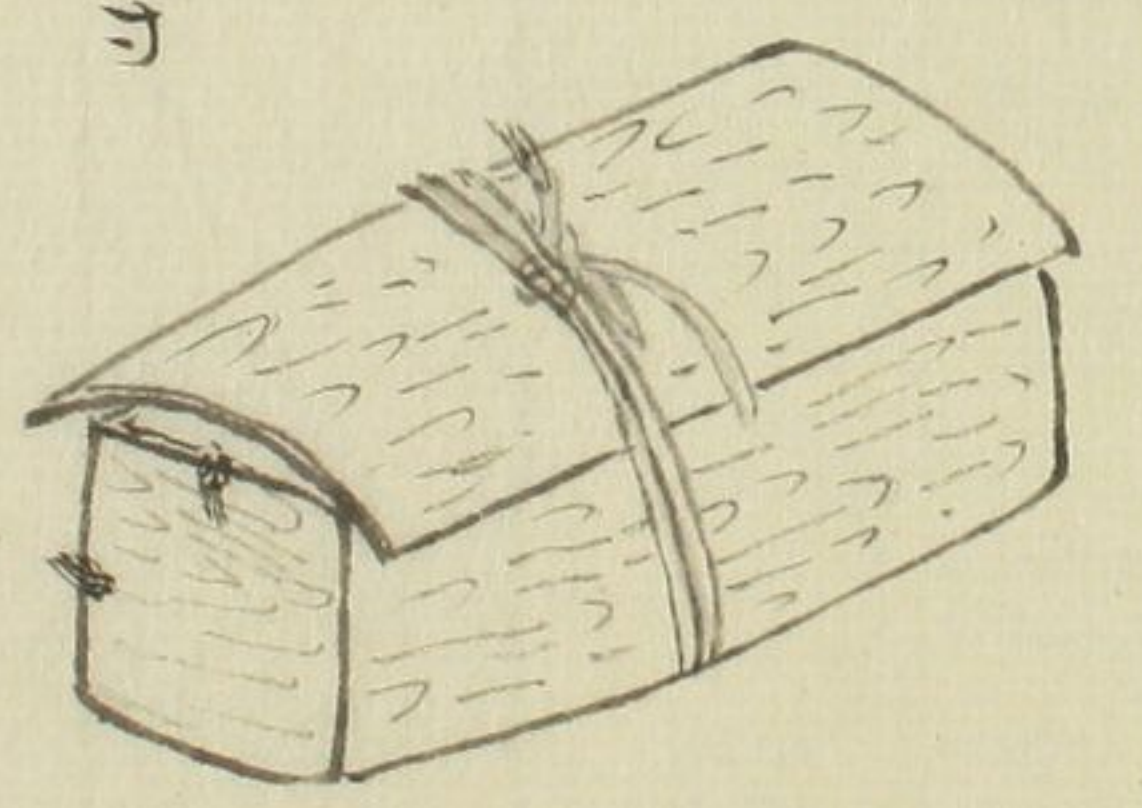
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、
本意の増進の爲めと云ふは、

茶碗の文印の如くは、女の心を
武臣の如くは、女の心を
弓の如くは、女の心を
矢の如くは、女の心を
木の如くは、女の心を
石の如くは、女の心を
鉄の如くは、女の心を
銅の如くは、女の心を
銀の如くは、女の心を
金の如くは、女の心を

と湯肉をいれたら

り女を釣く。二つ女の
し女を釣く。二つ女の

箱長サ一尺一寸、深サ六寸、幅サ一尺



寸、箱の底を平に、箱の中を中

空にして、箱の外を漆で塗

り、箱の蓋を、箱の中

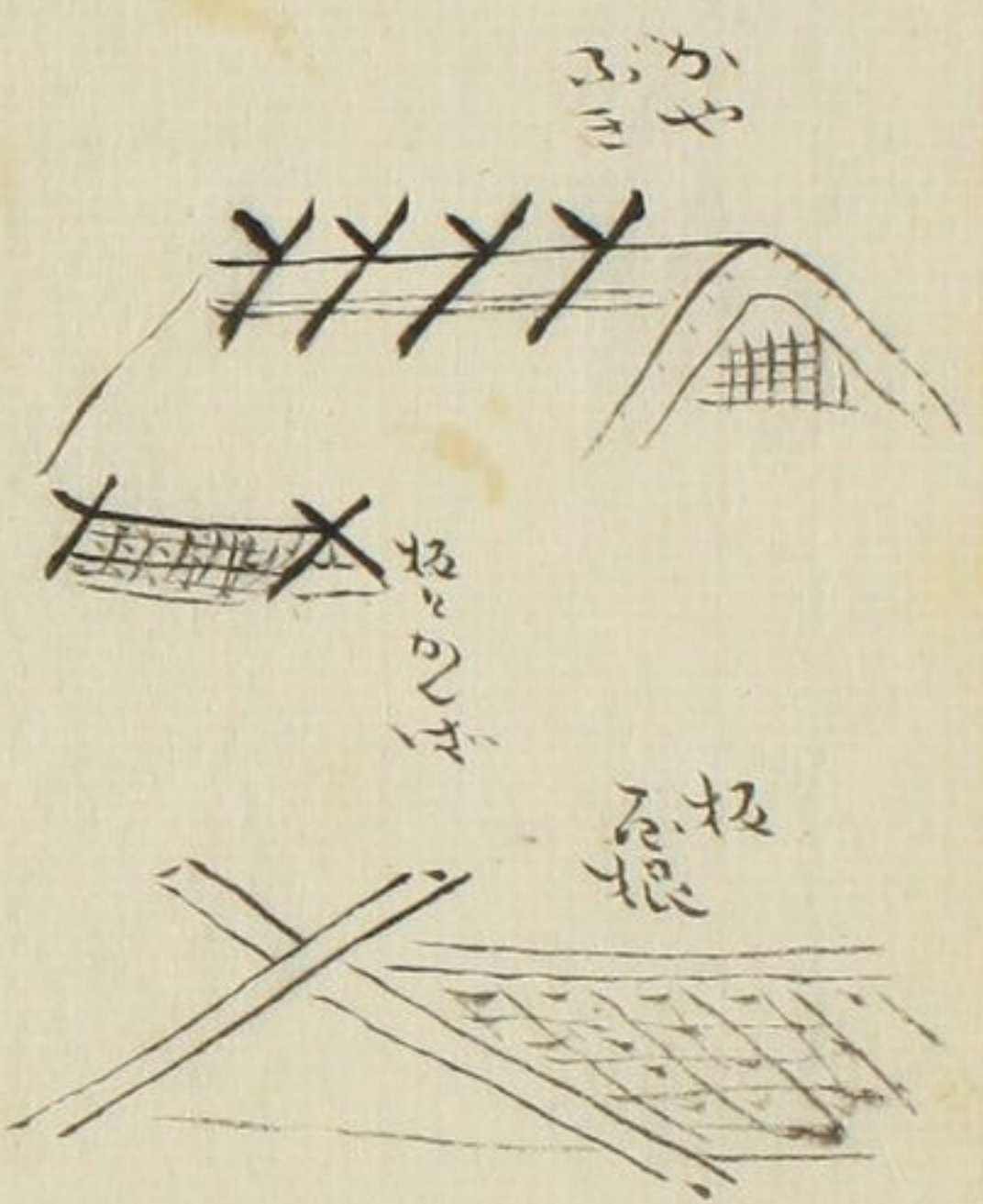
へ入れて、箱の外を漆

で塗る。箱の蓋を、箱

の中に入れて、箱の外

たるとあり

瓦根の図

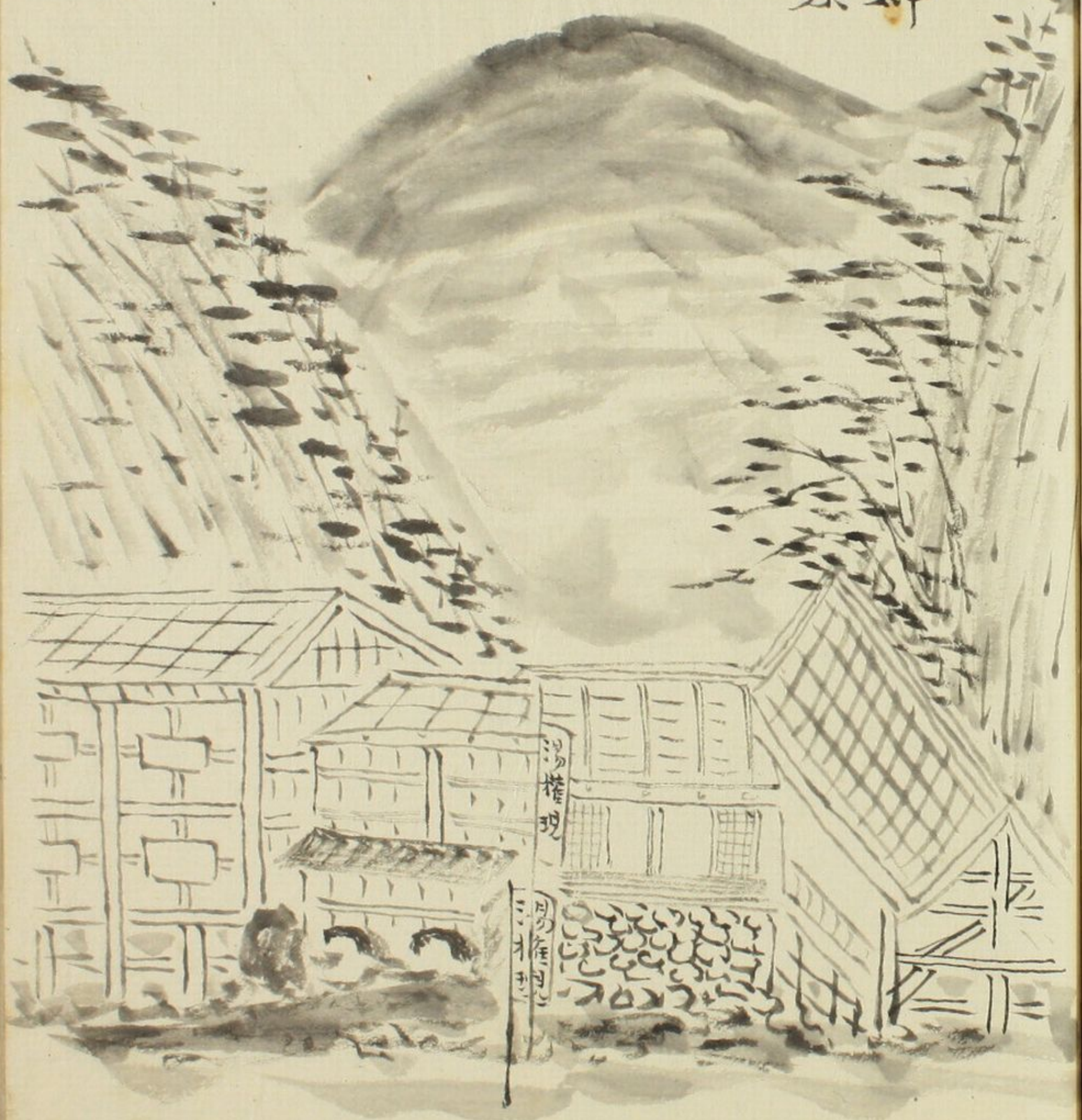


湯治温泉場は舟に舟村の人の名は松一海一の人名を記し
遊いし者の名に左より喜遊次 順者 ちの 人名を記し 女
の名を記し 舟を記し

湯治村より七河山の麓まで舟を甲子路 船は五十二里十八丁
湯治の湯に山畑の湯を記し 一ヶ年 舟を記し 三河年 舟を記し 此の山を燈き 舟を記し
於七年 月 日 舟を記し 舟を記し 舟を記し 舟を記し

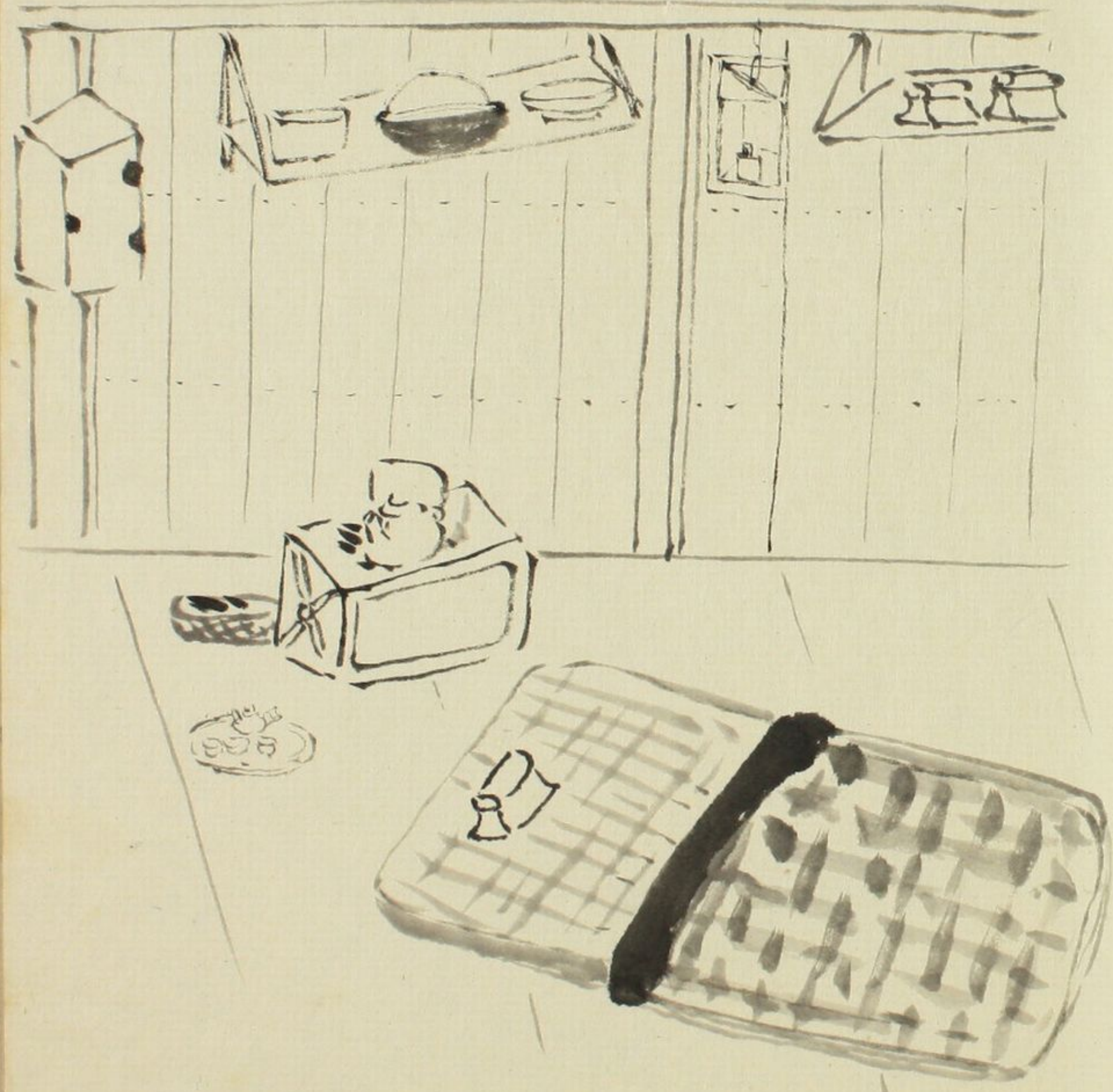
湯治温泉

北巨摩郡
湯治温泉
の図



北巨摩郡青木の温泉と云ふは並ぶより里程赤座石の中
 より出る温泉と云ふ黄色酸味あり水を胃病の爲によしと書
 木村三軍人といふと云ふを以て記す一たび次の岡の如く
 室のまゝ石油の如くを以て時と柱に横たふ長めの箱を客の火の
 の箱を以て入れし箱を以て箱の如く記すの事と云ふ蒲岡
 叔の谷に記すといふあり夜を糸を以てと云ふと云ふが云ふの箱
 燈に火の如くを以てぬらしたるころ下りて薄雲の燈火を以て
 たり川魚を以て食むを以て水邊の如く記すといふ二日あり
 去りし未明野鳥の鳴聲を以て眠るを以て記すといふ石橋木
 多く鉄丸を食むといふ木の葉を以てを以て記すといふ木を見
 たり古の如く記すといふ

北巨摩郡
 青木温泉
 客間の圖



川浦温泉
火の桶山

東山梨郡川浦温泉と申す處は昔は川浦温泉
と云ふ處に山腹にありて今も二丁余の上の地に温泉場
ありて其の湯の味は不潔極まりて又其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は
此の川に流れて其の味は清く其の湯の味は

東山梨郡
川浦温泉
湯の圖



しせす用せにち城の漢人の中に入るもの信じて
 一より成心の信作事と思はれり

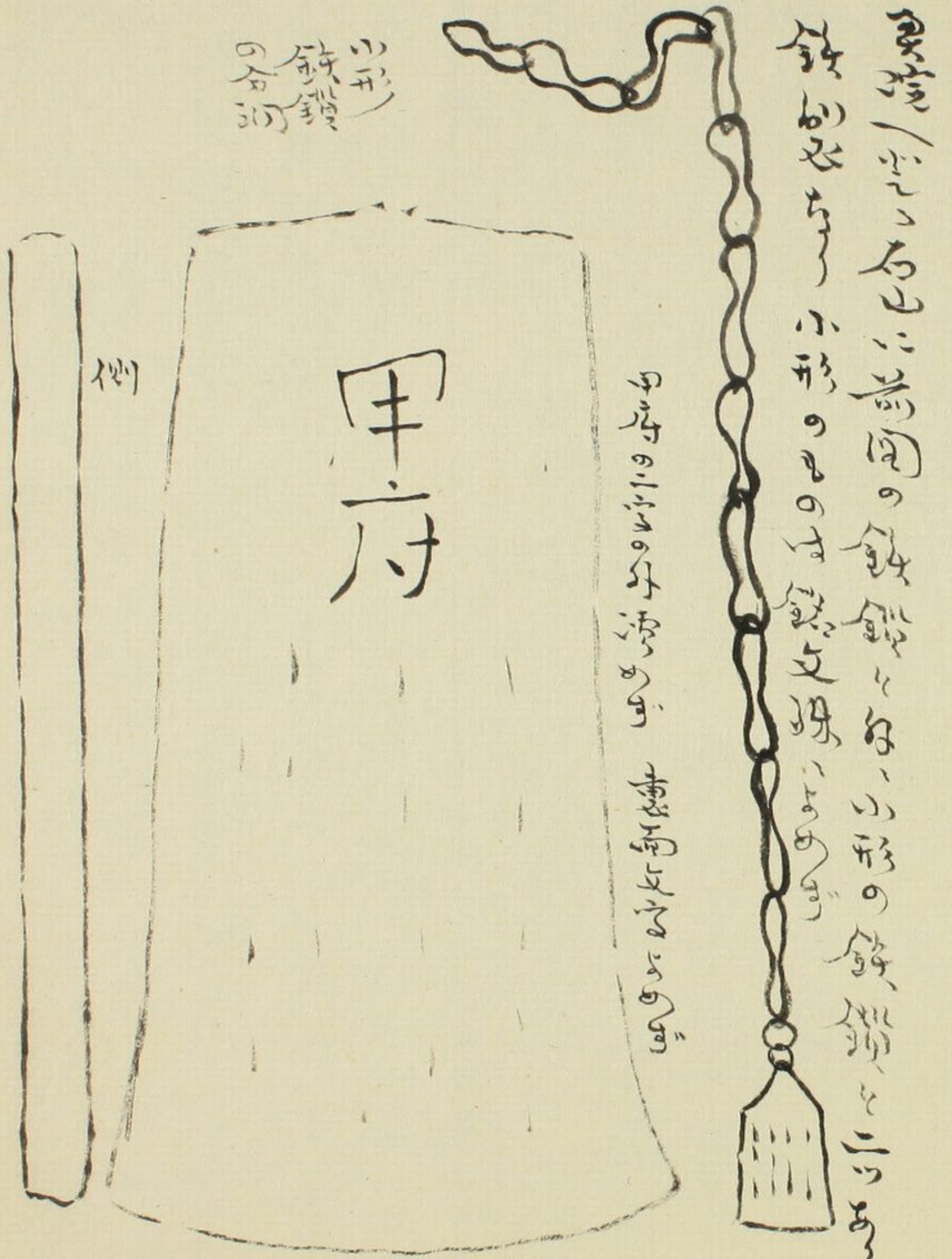
多岐院
 山の鉄
 銅の
 那ッ
 多岐院
 高金
 高金
 高金

金貳分	金貳分	金貳分	金貳分	金貳分
一	依一	重吉	又右衛門	市石市門
同	同	同	同	同
金貳朱新	金貳朱	金貳朱	金貳朱	金貳朱
同	同	同	同	同

同如大

安政三

山形
 鉄鎖
 四谷

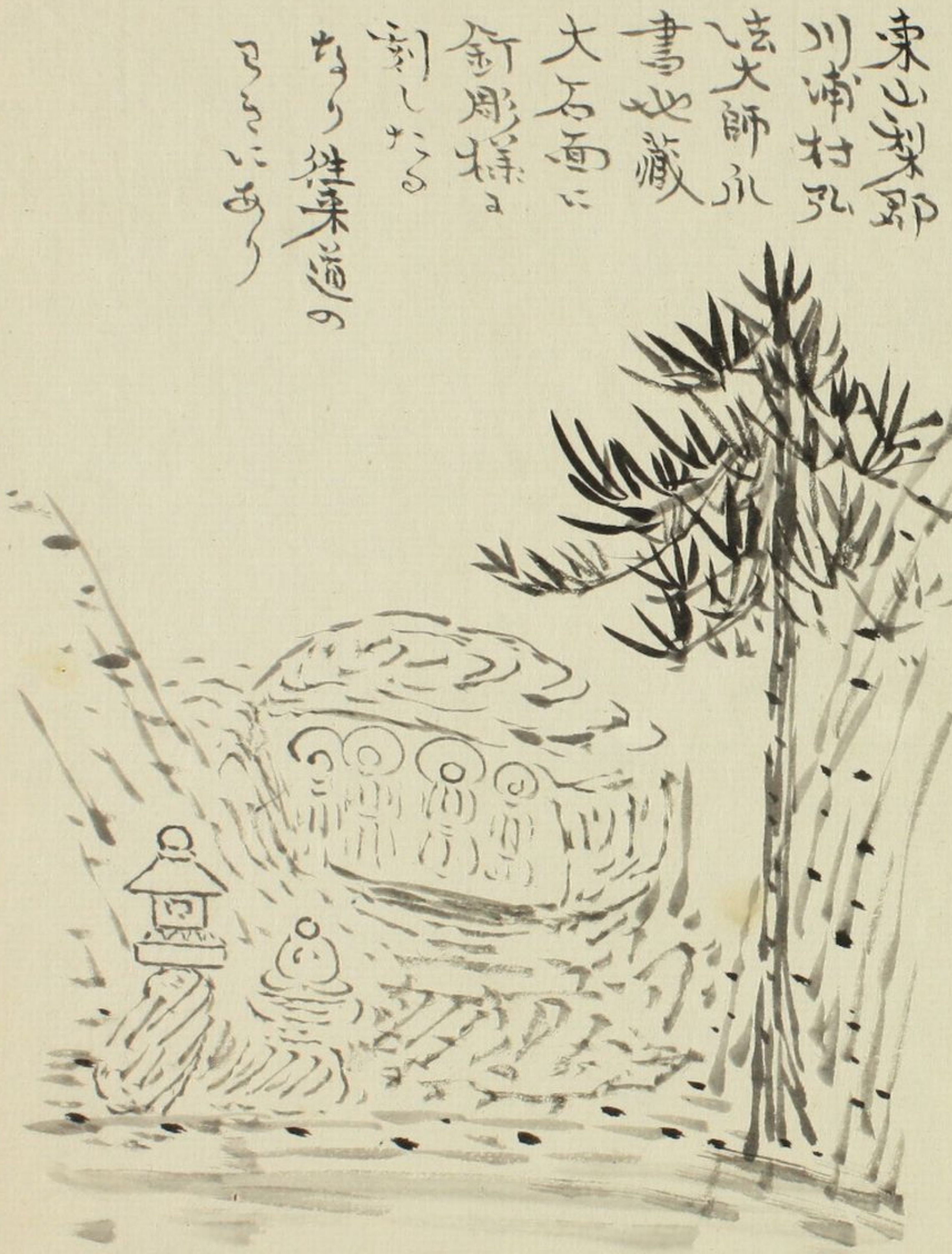


山形
 鉄鎖
 四谷

鉄の
 鎖
 山形
 鉄鎖
 四谷

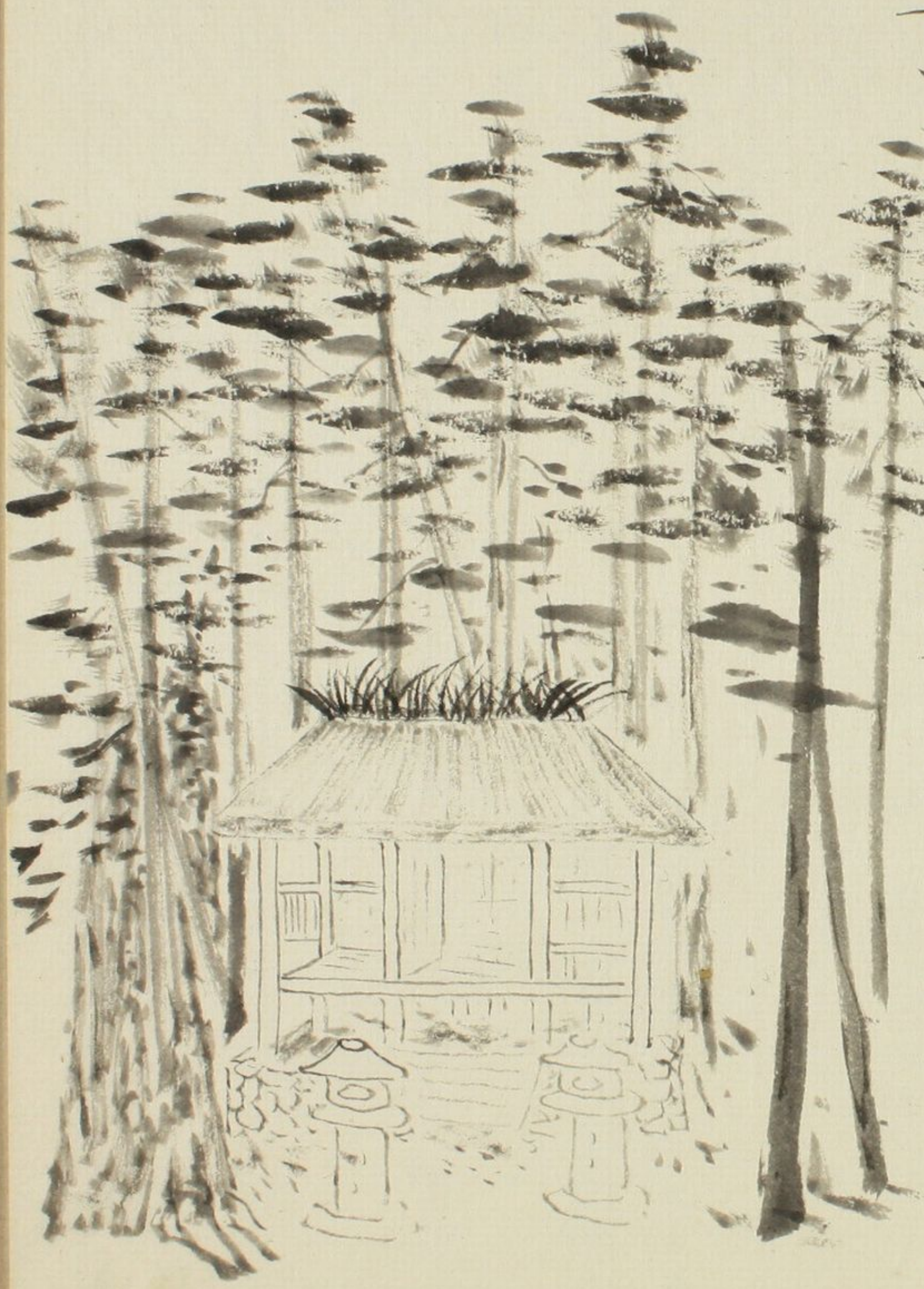
例

川浦に立ち止る大川のほとりありて
湖のほとりには粟都を筑く
の先父粟都を築く
老母のまはりの粟都を築く
あまたの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く
粟都のまはりの粟都を築く



東の粟都
川浦村に
法大師の
書也藏
大石面に
釘彫様を
刻したる
なほ往来道の
しるしあり

東の社 三河土酒古雷神社



東の社
三河の
土酒古
雷神社
の
御
祭
神
は
土
酒
古
雷
神
と
言
は
れ
て
お
り
ま
す
。

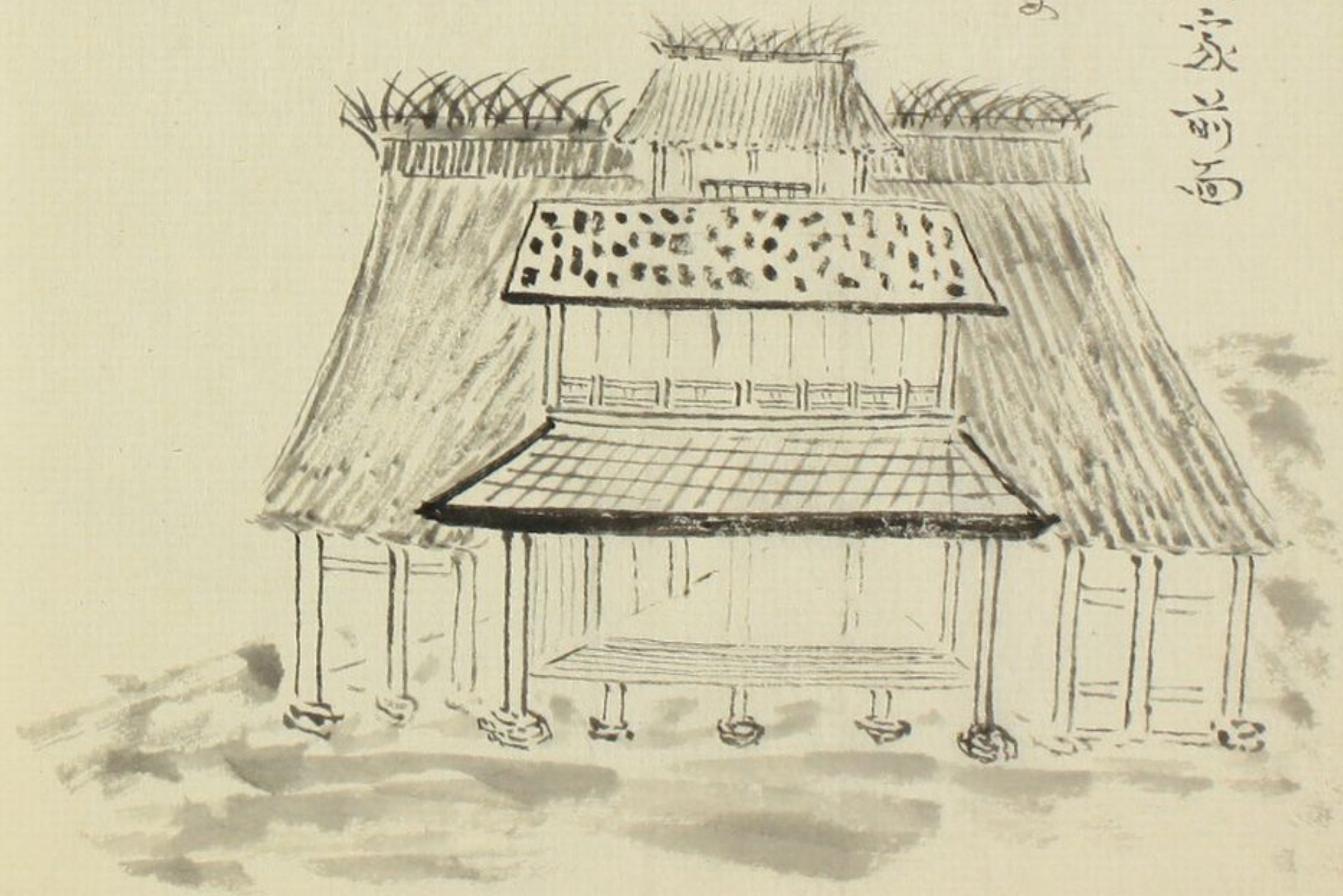


氷石

東山梨野郎法印
の梨園神社
氷石の圖
石質層をわし
四入金の扁石
り氷石の石
洋ならん

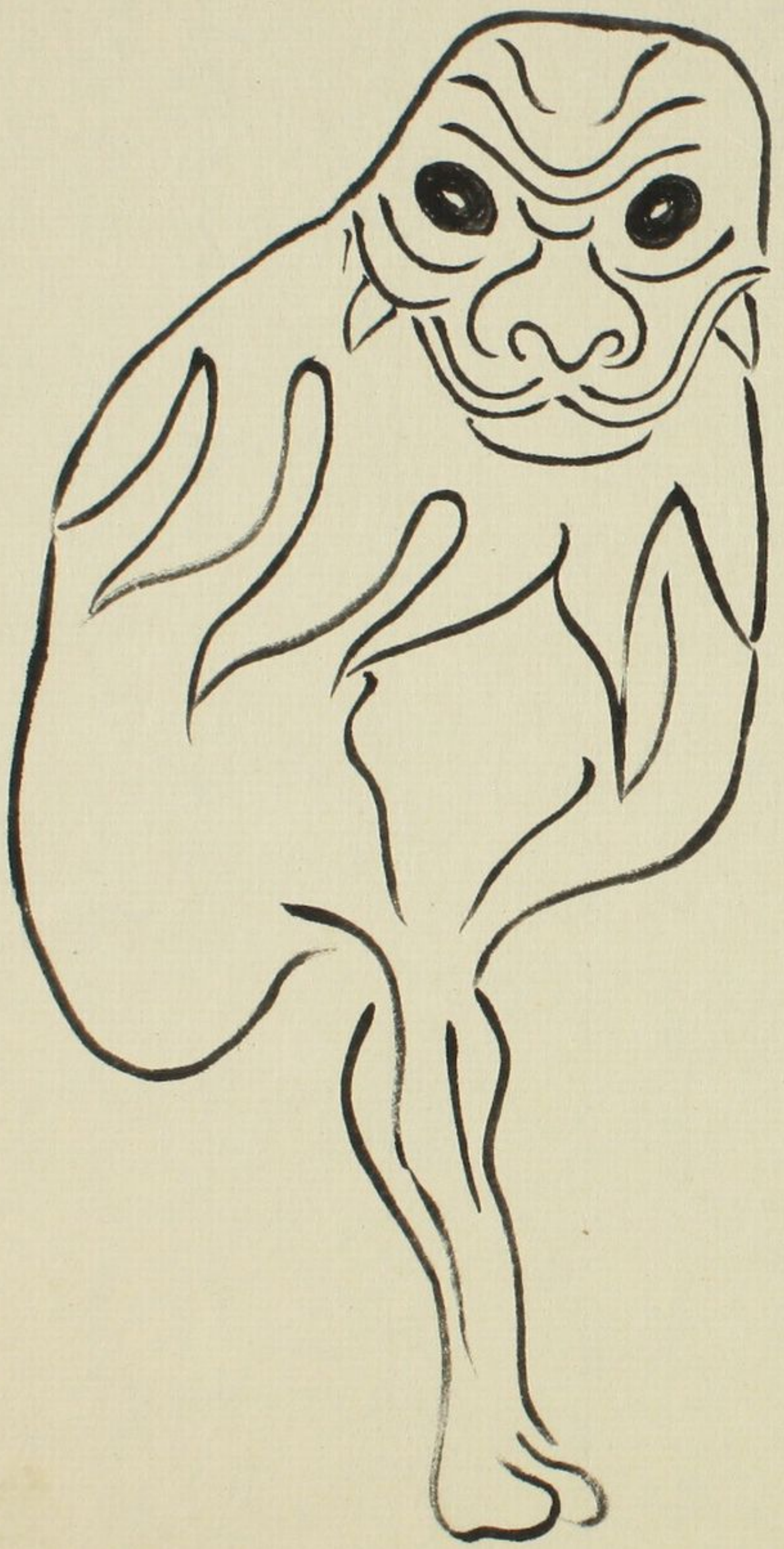


東山梨野郎法印の
三層の石造りの
三層の石造りの
三層の石造りの
三層の石造りの



前園の山梨神社に愛の神と云ふものあり雪江及び兎中谷と云ふ年
 暮祭礼七と云ふ日一同帳あり但木の塚中記行の山梨神社のよまにやへ
 記せし前有木刻獨是殿一祠視不識為何殿問祠者何神即大山祇也
 傳之山之怪變廻廻皆是印とあるは兎木の見なき時ニ神宮
 二其のり。名とも云ふ事ししる事おかしき事とも云ふ事ししる事
 とい一本の神社のこころをいふ事一本の山の殿をいふ事とい
 ちをいふ事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事
 とい一本の神社のこころをいふ事一本の山の殿をいふ事とい
 ちをいふ事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事
 とい一本の神社のこころをいふ事一本の山の殿をいふ事とい
 ちをいふ事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事
 とい一本の神社のこころをいふ事一本の山の殿をいふ事とい
 ちをいふ事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事
 とい一本の神社のこころをいふ事一本の山の殿をいふ事とい
 ちをいふ事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事ししる事

東山梨郡山梨神愛の神の影



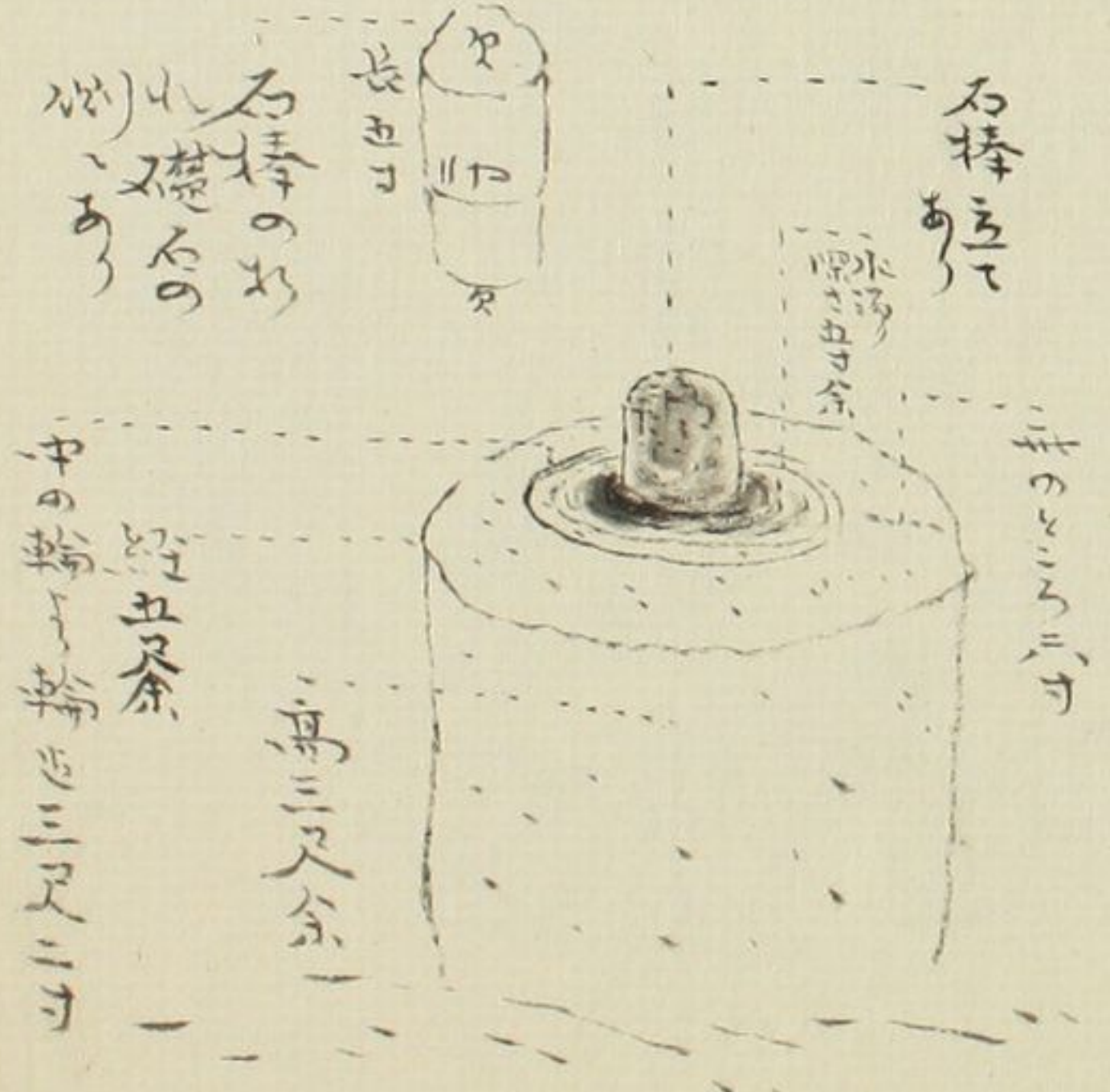
山梨神社より北へ行くと善提山と云ふ山あり
到る途中に石橋あり昔より此の山に
石橋なるもの遺あり可憐なり



此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり

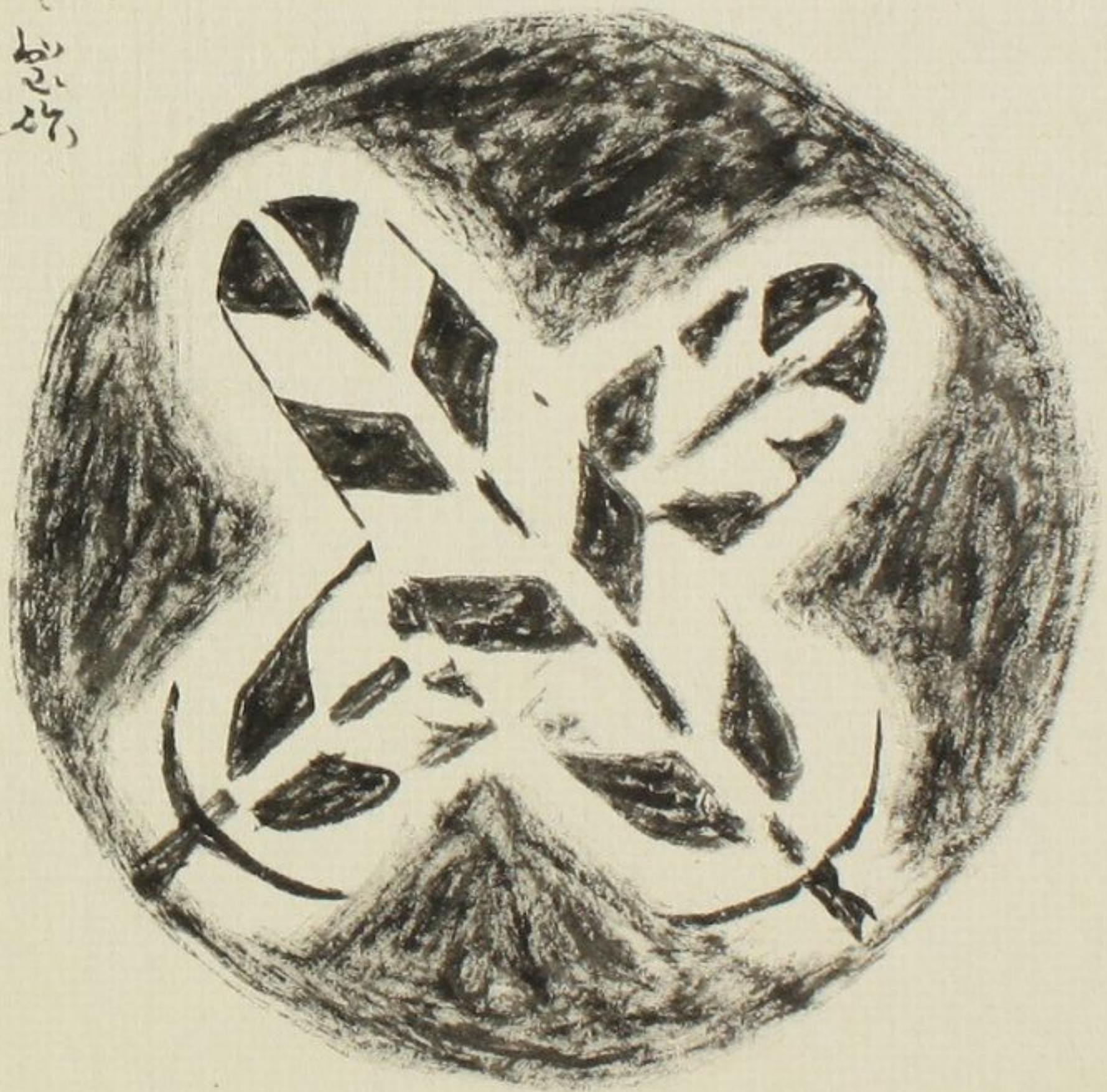
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり
此の山に昔より善提の山と云ふ山あり

東山梨郡春日谷村の寺本村
大基礎石の真中に二尺三寸程の
石あり此の石は古の國合寺の
礎石と云ふが是の國合寺の
礎石と云ふが是の國合寺の
礎石と云ふが是の國合寺の



甲府城の妻守知
出た古瓦の
の
父の
甲府城を
し
の

大
おし
大



明治三年、頃、悪疫、甲斐清郡、
村々、
あ、
り、
新、
知、

普天之下、
疫神、
奉、
也、

甲府縣廳

印
六
月

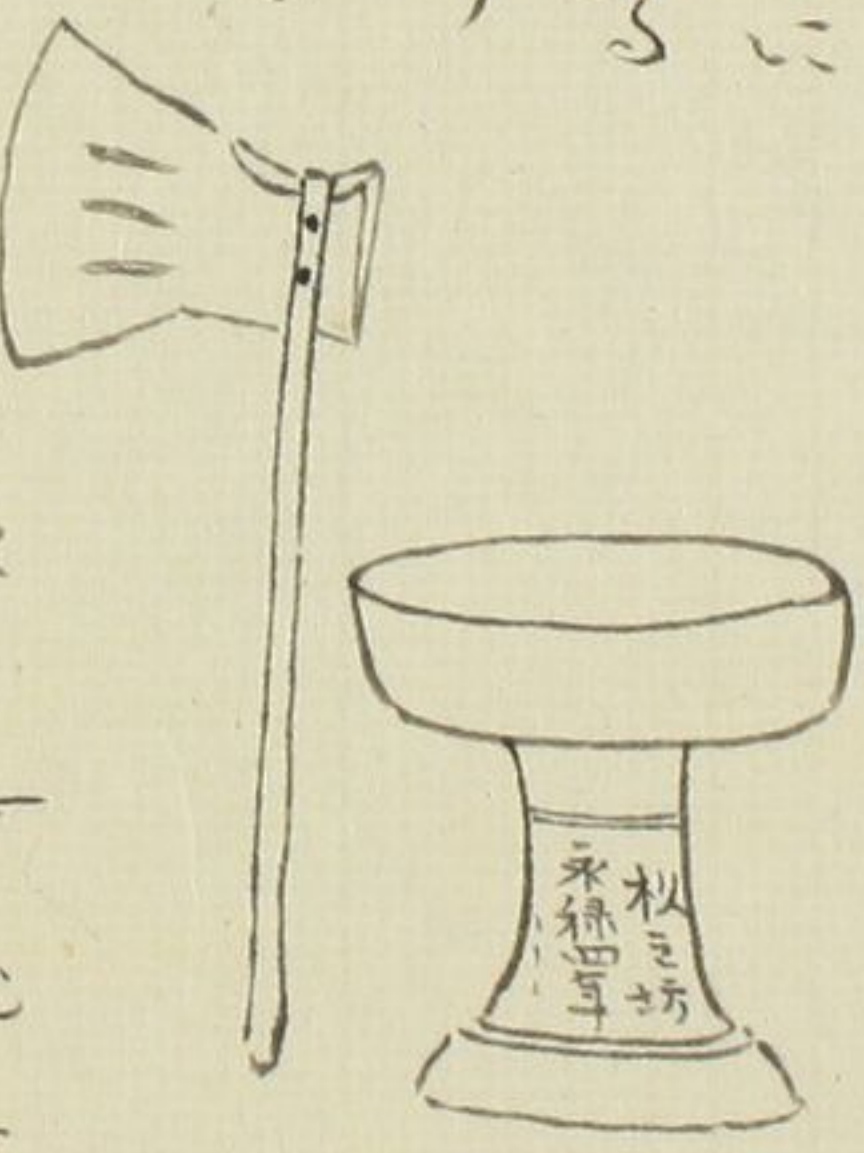
八代郡
大野寺村
疫神

甲府城屋敷の秋山平兵衛又日記中に甲府にて鑄造あり寛永

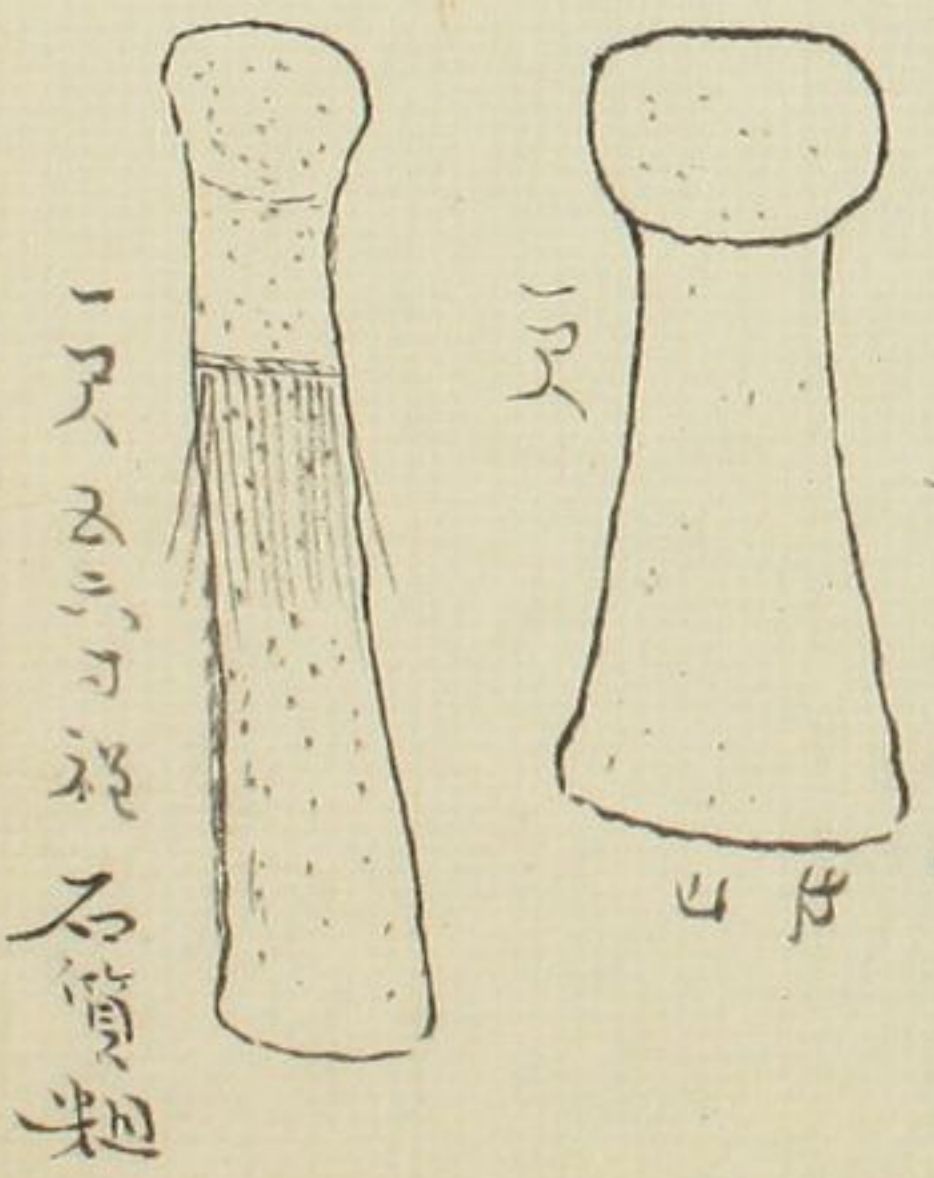
銭の鑄場を年代とも明細に記しあり其記に
甲府山梨郡横沢の元文四年三月初に鑄銭の鑄
同年九月停止此銭百文二様

此の銭を鑄る許可を得たる者十マカ三(評)と申者横沢の飯田
河原にて今の畑川の原にて鑄るなりと

東山梨郡勝沼より東方松敷丁に
栢尾薬師堂あり堂に古碑古香あり
を見よ向敷の古の蔵と見(かしこ)
栢の坊より遠く京の寺より今
見よかけしちりしし寺なり
栢尾の堂より後の行者の前後二鬼の古木像あり此の鬼の持てる香柄の
つけし素より釘付ありしものなり



上府中の真言に玉と稱しふを寶物ともいふあるに
因幡寺の古物のものなり支那製の鑿り細工なる金線丸籠の
鑿り又(玉)の形の鑿りつゝ縁は小さき玉として飾りしもの外に
羊角の鑿り籠と称するものあり
甲州の法郎より石棒神体となりて社内にありものよし道祖神の
神体として道端に立てありもの中より古代の石棒と見ゆるもの
近代的のもの見ゆるものありもの古代のもの見ゆるものあり
甲府より田中の持より前節婦栗より
の碑より道祖神石棒の石棒の石棒の
一よりこの石棒は古代のもの見ゆる
田中より古代の石棒の金山大明神社の
神殿の欄にある石棒を縄かり居れり

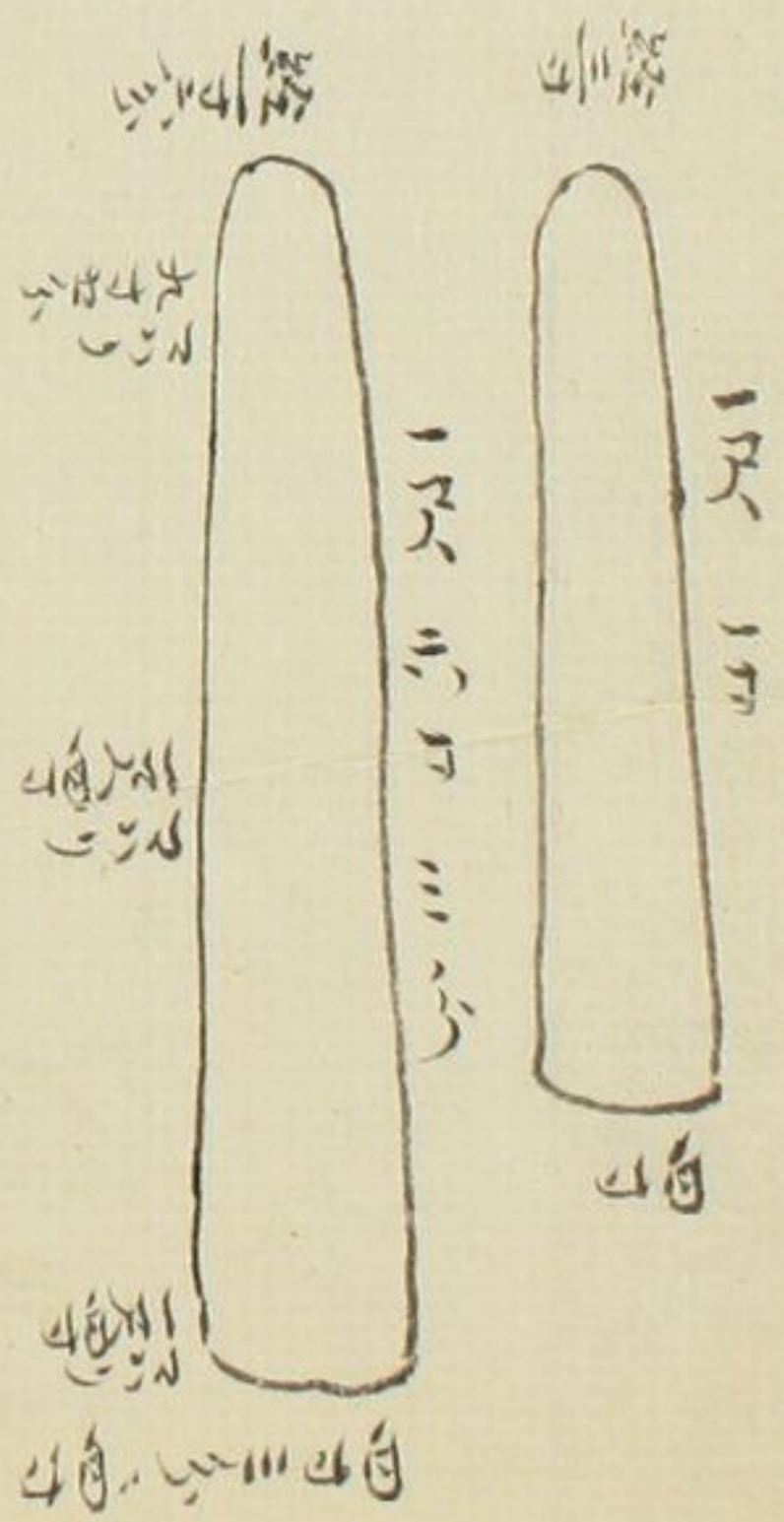


一より二より石質粗

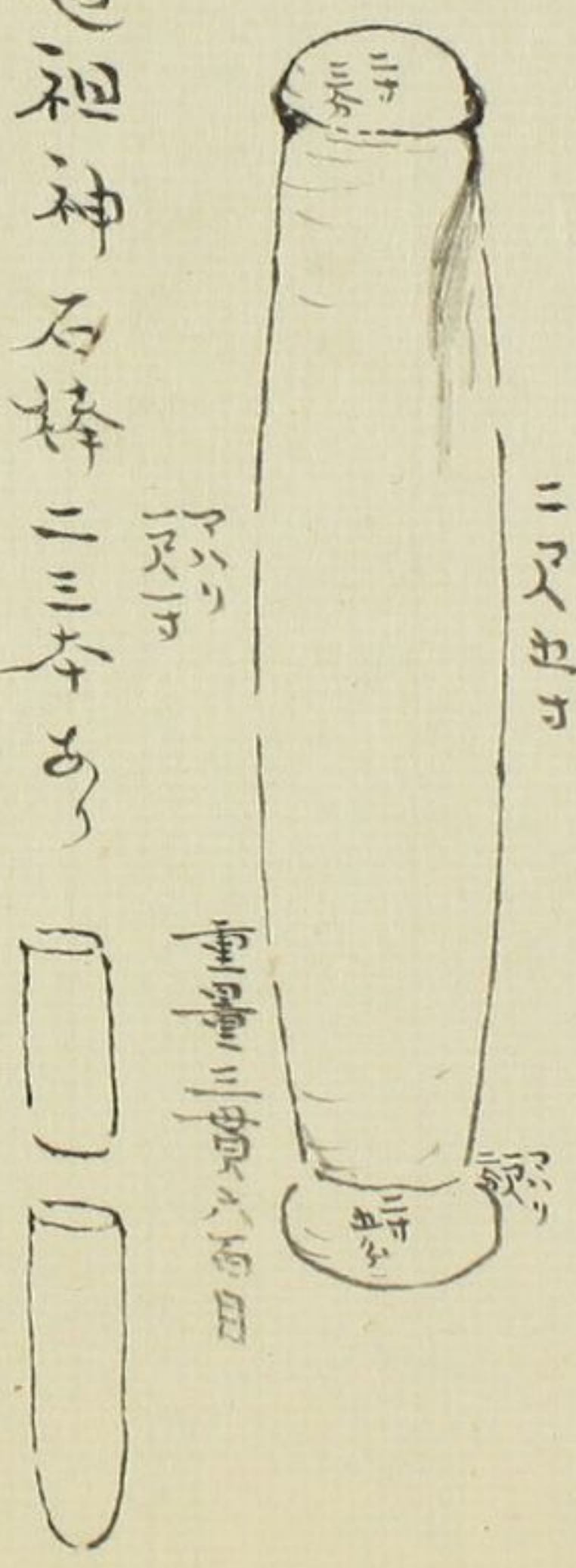
西八代の大塚村道祖神の石棒あり
新三陽石三本を共にあり

東山梨の石村山神職宅に蔵す
石棒者石あり

東八代郡一橋村白一の宮神官古屋直世父蔵石楯石棒
織田父の時代兵亂の時井中に一づの兵火の難を免れれり
此記録あり



北郡の郡無子村の道祖神石棒三本あり
石質の影石の楯あり寸尺をとりてし

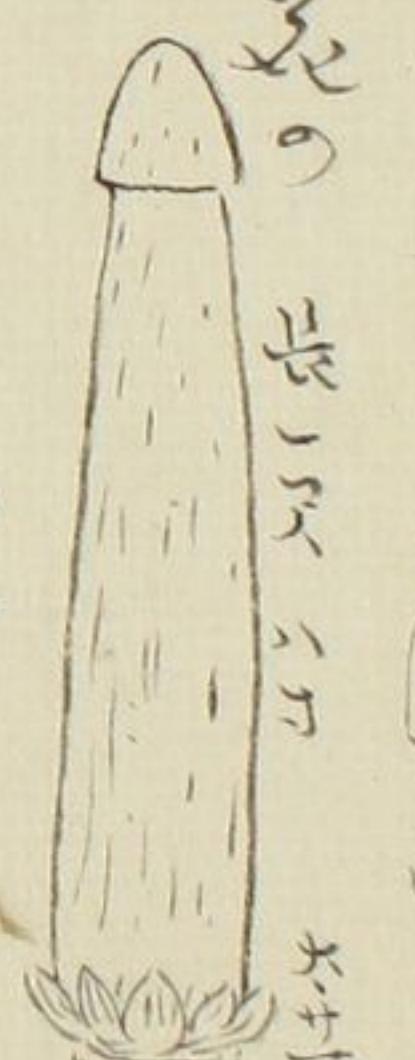


中巨摩郡大井郡古里場大久保某父蔵石棒あり
長六寸三分



中巨摩郡の下高砂村に傘也蔵と云ふあり
多しあり此村のあやもなと申也蔵の体は傘形
の石の棒ありとの事あり
にて寺僧にといひ一覽を頼みたり
寺僧も此蔵の道祖神の石の事あり

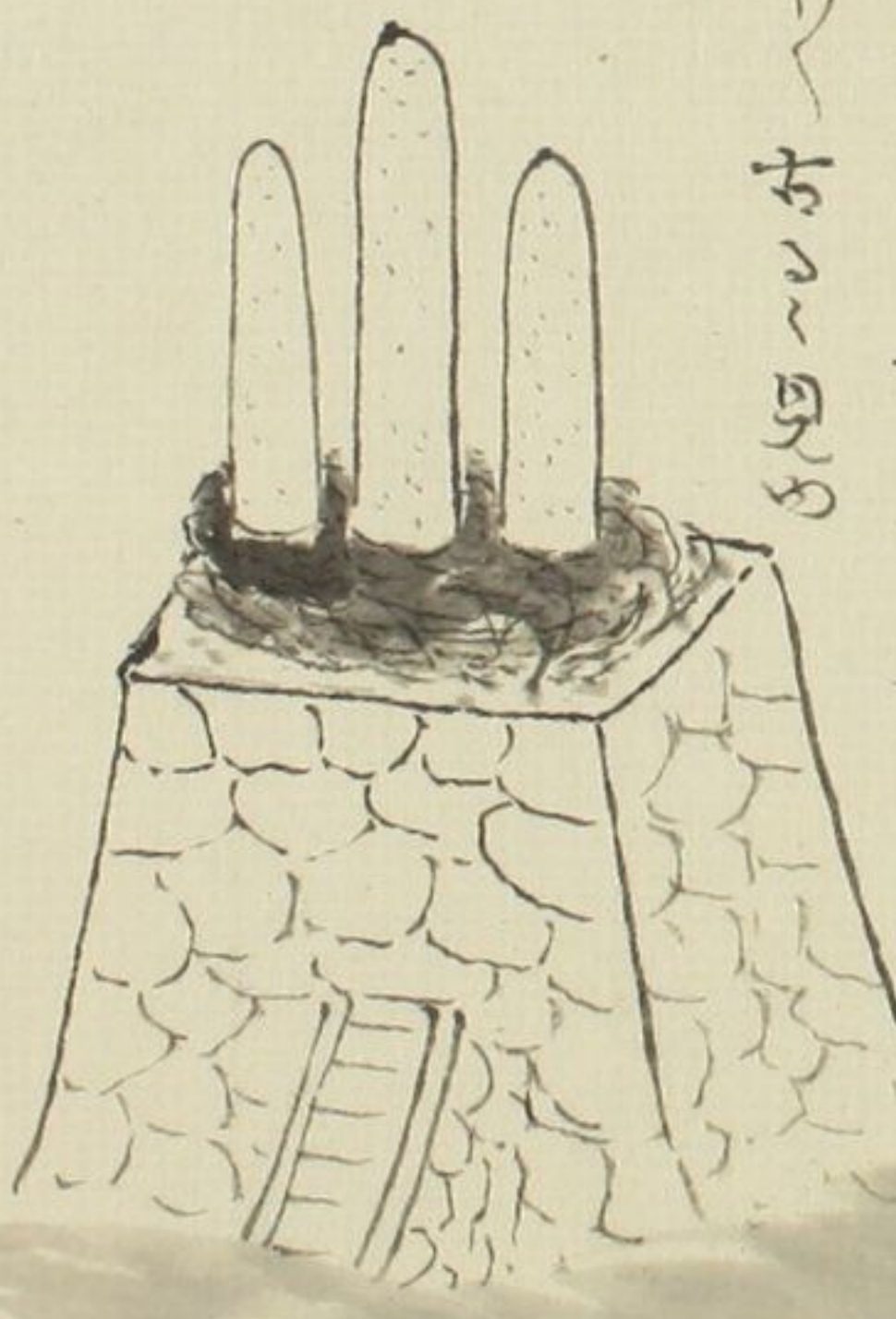
此儀等は河内入の三邊と背中に刺るあり○田んぼを築くに
傘をさす如くありありの石棒あり蓮花の葉に似たり
臺には石を積む棒の根の處に火をたき
ゆ／＼とてさるといひてい／＼とていひてい／＼とていひてい／＼
見ゆふいぎの火を燃やせとていひてい／＼とていひてい／＼
石棒が此儀等をたんとありて此に例の事なり
東八代郡末木村八幡社大木の
根もとに石棒の形を二本
あり是二尺二寸餘可なり此
し先四寸あり餘四寸大サ
後先ち



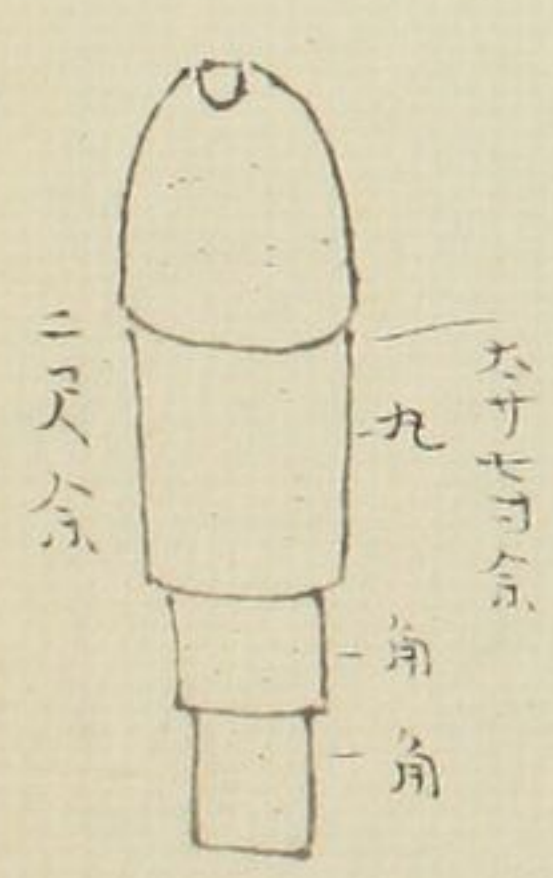
谷野のくづれ持村へ到るところの道祖神の社あり格子のしやに二人
程の青石の持あり青棒の先は丸石のせり



東八代郡國三村國分寺とて無佛利神社として奉りあり
石棒古代のものにはありとて中へあり見ゆ
團の如く自然なるはありとて中へあり見ゆ
十の中のもの一尺二寸程左石のつゝ
一尺二寸の根あり大石のつゝあり



北戸麻里郡小笠原村道祖神の湯石形に
近づくたもの男根の石楯あり



此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に

預り切手
貳拾四文
西十二月十五日

西曆
平之國

此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に

一去年より一銭の増しはるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
一去年より一銭の増しはるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
一去年より一銭の増しはるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
一去年より一銭の増しはるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
一去年より一銭の増しはるるは十一枚より額出許可發行したるが故に

依之下る大難は此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
依之下る大難は此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
依之下る大難は此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
依之下る大難は此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に
依之下る大難は此の文の用はるるは十一枚より額出許可發行したるが故に

通ずるゆへ去るを嫌はちりし

桃の花と海

三月の暮の白くつる海又岸邊を流るる海とて

東の海と重箱

東の海と重箱(南天の葉を豊に食ひて)

重箱の海

重箱の海(その強飯は丹録(海苔)の類)

家の海

家の海(家の海は長を食ひて物へ)

土産と贈り物

土産と贈り物を父をへりて

赤豆三粒

赤豆三粒を其中に入れた

下りの木

下りの木(川船を下りて川船の上りて)

舟の海

舟の海(舟の海は舟の海)

水と山

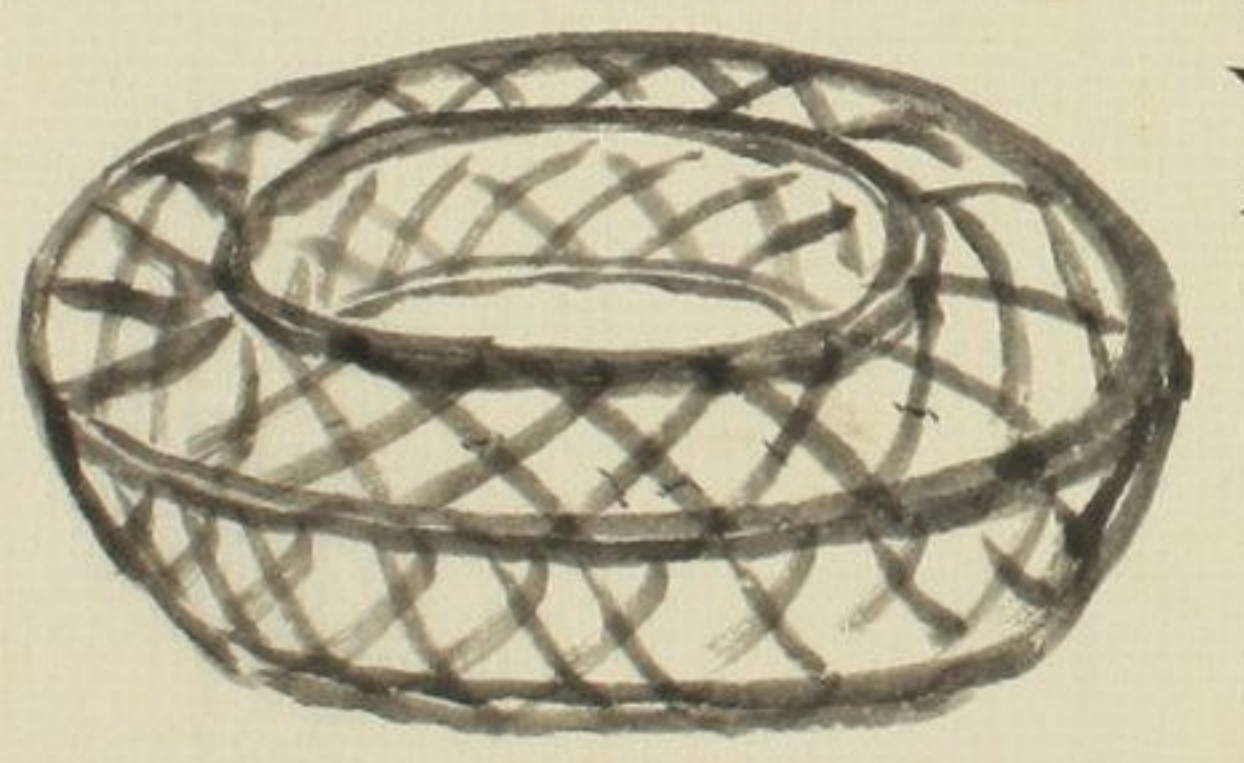
水と山(水と山は水と山)

を築きしに甲府の土也出泉なりと
 甲府市の西に在り神あり此の神と云ふ
 其の神「磐」を撰り水流を廻じさせしと又瀬立不動と云ふ
 川瀬と云ふは此の神佛協力と云ふ水を引き寄せ流せしむ
 といふ也又「人の神」の雷公といふは東に在り「法城寺」
 と云ふ也東に在り「法城寺」に在り此の神也
 此の神「磐」を撰り水流を廻じさせしと又瀬立不動と云ふ
 川瀬と云ふは此の神佛協力と云ふ水を引き寄せ流せしむ
 といふ也又「人の神」の雷公といふは東に在り「法城寺」
 と云ふ也東に在り「法城寺」に在り此の神也

法城寺

甲府市の西に在り神あり此の神と云ふ
 其の神「磐」を撰り水流を廻じさせしと又瀬立不動と云ふ

法城寺
 甲府市の西に在り神あり此の神と云ふ
 其の神「磐」を撰り水流を廻じさせしと又瀬立不動と云ふ



法城寺

法城寺の城跡より燧灰出たりと勝頼公天正十年三月
 法城の跡に兵火にかりし燧灰の今も在り此の城跡に藤武
 神社あり石段の敷三百六十八段ありて是れ一方の登り下り
 といふ也

聖徳太子は、大化改新の功績により、
 日本を統一し、中央集権国家を築いた。
 彼は、儒教と仏教を積極的に導入し、
 律令制度を整備し、国家の発展を促した。
 聖徳太子の治世は、日本史上最大の
 転機であり、後の文化繁栄の礎を
 築いた。

聖徳太子は、大化改新の功績により、
 日本を統一し、中央集権国家を築いた。
 彼は、儒教と仏教を積極的に導入し、
 律令制度を整備し、国家の発展を促した。
 聖徳太子の治世は、日本史上最大の
 転機であり、後の文化繁栄の礎を
 築いた。

正牌袋のい

と葬式用にして一室のまのひの野守の波瀾と持ていゝるが
昔のものよりよまらへる村のまのひの葬式の昔の野守より松葉葬具を
借りしむるころより今様を借りしむるころより昔の野守のまのひの
等しいしに南條せざりしを
老人の死せし時葬式に用いたる正牌袋のいせ増ゆる事噂を流し
めりしむる持ていゝる昔のいゝる老人の正牌袋のいせと
宗袋にはいゝるいゝる長命いゝるいゝるいゝる
身廻しの先任の葬に會せし者の語に葬式用にいゝる天蓋
其他を會葬者かへし持ていゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
年いゝるいゝるいゝる
中層瑞穂村にて見しに老人の死せしめりし
後ち白岡中二ツツツと見し

白岡中二ツ

葬具のい

白岡中二ツ
會葬者のい
子分持をい
親のい

白岡中二ツの葬具は、正牌袋といふものなり。此の正牌袋は、
いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
と會ししに、いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
勝つていゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
子分持といふものは、親のいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
親のいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
申すに、いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
昔に、いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
共に親のいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる
村長を、親を、前例を、事、起し、いゝるいゝるいゝるいゝる
いゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝるいゝる

炬竹

菓を用ひ

天目山の栗餅

六ヶ坪の栗餅

早九の餅

江戸おの栗餅

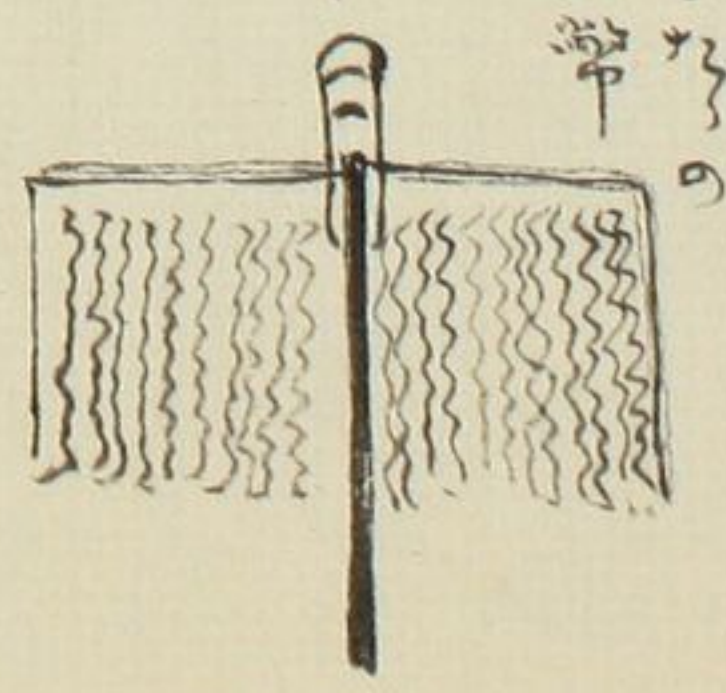
赤く染めた桐竹の用は雨ざらしを治すためと云ふ人の言ひ
 又此のまぬぬに裁れど甲府の建交のつたの外壁をいり
 かねのたのち命のそせぬ故に不用と思ふまゝと云ふも
 當年の十月のこまじり天目山の茶の焙り
 栗餅(蜂窩)をもちまゝにしり玉に甘味は味いほさる
 勝つてゆくもさるゆゆと油揚げのたまりをふたひ見せし見
 柿の天目山はぬぬも色味もものさし
 早九の餅とて一鉢(大井一鉢 三井一鉢)餅をうつさるゝと
 北巨摩郡の上は村のりちちをりし時或はゆつたが父
 ろはをもちまゝを朝にお餅餅を椀に盛るはゆも茶碗に盛る

て膳につけたる餅の娘の容の後になつてもういふか
 るも持てまゝを客へ餅を吟ぐやあまの手に持て椀を
 膳の上の椀へあけて再び盛りし後ろになつた幾か
 にとり強ひをよとせしゆ膳のお餅をもちまゝに代りて
 てはひるにまゝを餅をひくもまゝのこし椀のたのち
 餅は引らるゝ
 各飯は米飯多し
 飯は椀に盛るつゆ茶碗に盛る
 食は別にちちちが餅はのほろ
 高らけいかにしるゝ



川びらき水神
祭

馬のぶ村より三日かけて川をたると、新入の神祭をせし流氷
のあつころ、帯をたたく横長の帯をたたく
あつころ、水びらき祭をたたく
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中



川びらき水神

あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中

あつころ

あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中

あつころ

あつころ

あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中
あつころ、水びらき祭の中

あつころ

三ノ木の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、

北の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、



松の木
の葉

北の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、

若鉄瓶を見ても、
鉄瓶の葉は、
鉄瓶の葉は、
鉄瓶の葉は、
鉄瓶の葉は、

東の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、

木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、
木の葉の葉は、

廿七年七月四日十三日迄甲府市中風俗調査を識せし左の
表を掲げたる小學校通い生徒を除きたるもの

女 三百九十四 (市中)	西東東	四十八人
女 三十七 (鑛務)	西東東	二十二
總計 七百三十一人	西東東	七十人

男 三百六十九人

東東東	六百三十二
西東西	二十八人
西東西	十八人
東東東	一人
西東東	三百四十二人

に女...の男に倍き...の女

甲府の雪の量は東北より用ひ形と圓角形に一枚板を

棒の間にはさまるとの二種類あり

扇形のものは板の間に雪を溜め

帯にゆきをかきとるの形あり

形をとりしりきりかきとるの形あり

火通し板を板の間にゆきをかきとるの形あり

形あり

甲府の人の平均身長は...あり

の平均身長は...あり

の平均身長は...あり

の平均身長は...あり

中...あり

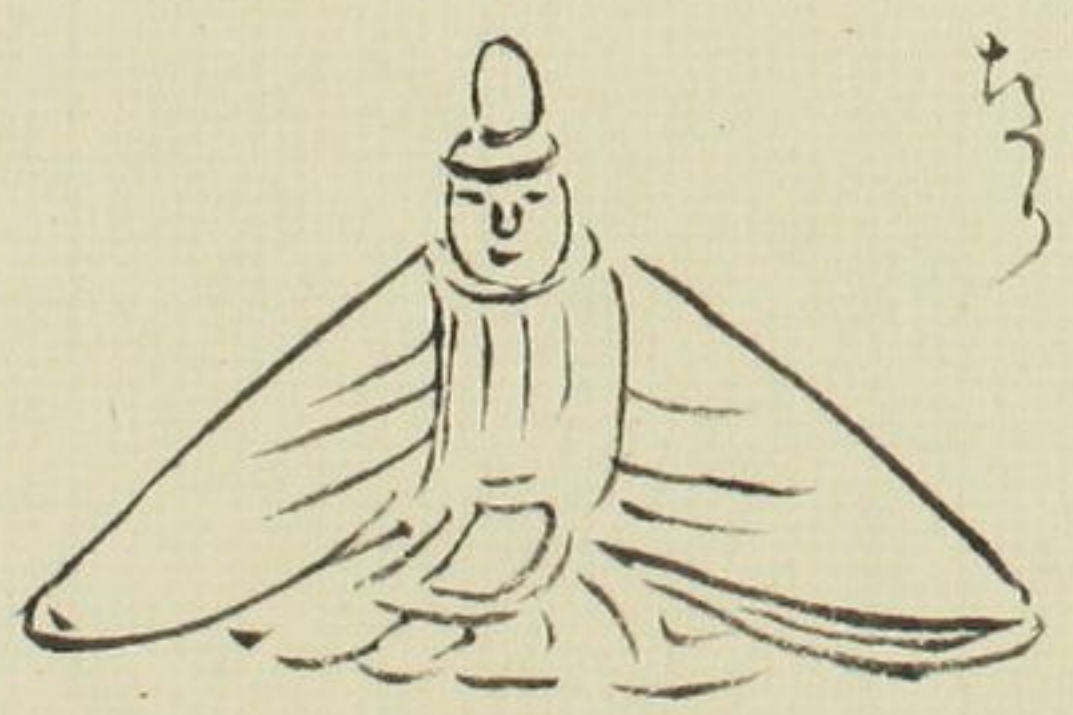


甲府善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし
 甲府の善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし
 甲府の善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし

甲府善光寺
 頼朝公と美教終りつた本像二体ありて

甲府善光寺
 頼朝公と美教終りつた本像二体ありて

甲府善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし



甲府善光寺
 頼朝公と美教終りつた本像二体ありて

甲府の善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし
 甲府の善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし
 甲府の善光寺に頼朝公と美教終りつた本像二体ありて
 大なる像より大人の座せし程の大サなりし

廣門田
 藥袋

小倉
 圓井

春秋
 左左

平等
 國府

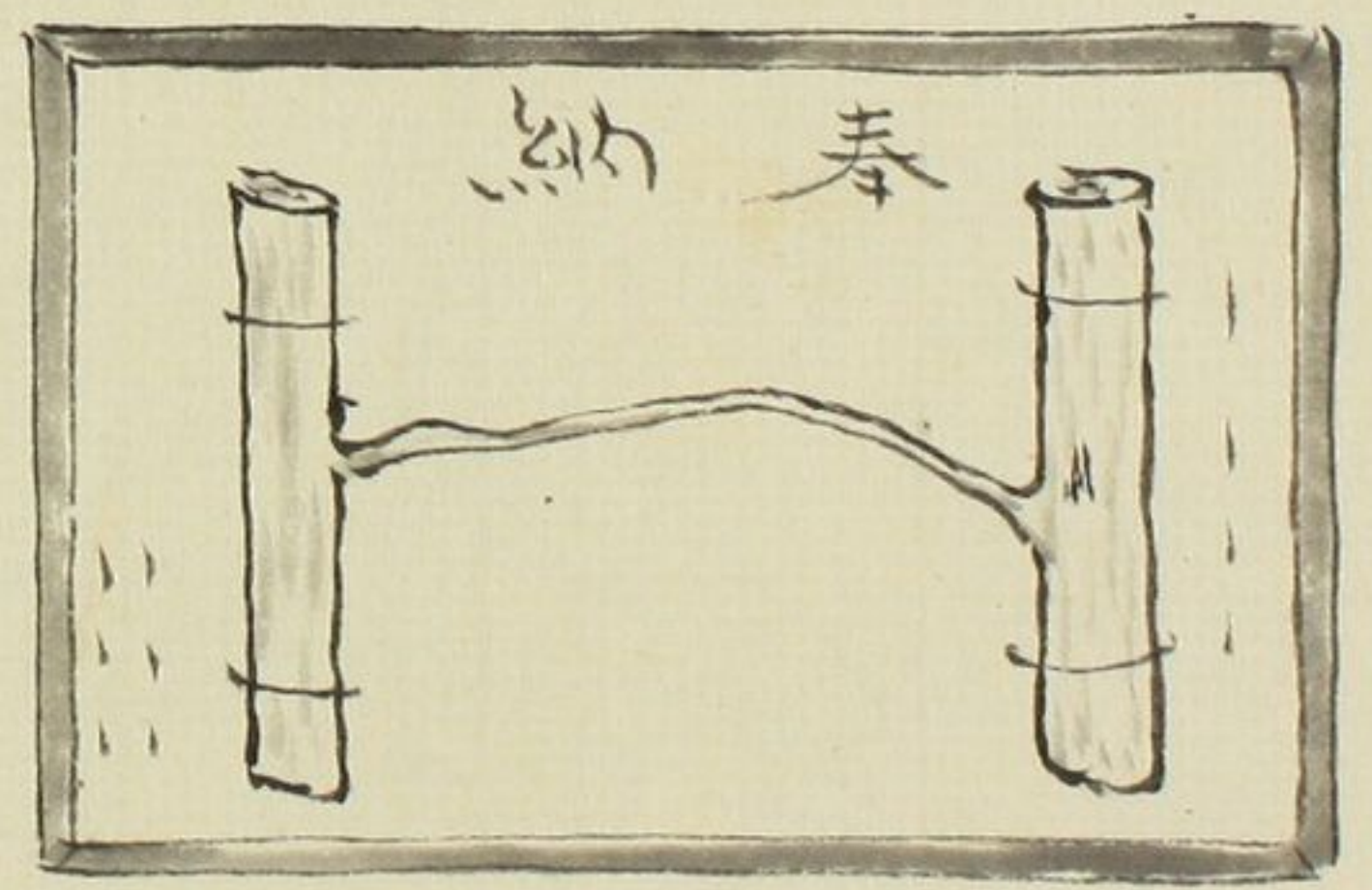
飯富
 等力

石知

御勅使川

連理木の類

東八代郡志木村八幡神社
社前額面連理木を
天保八年に納りしものを



石

酒折宮の神官飯田正美に作る

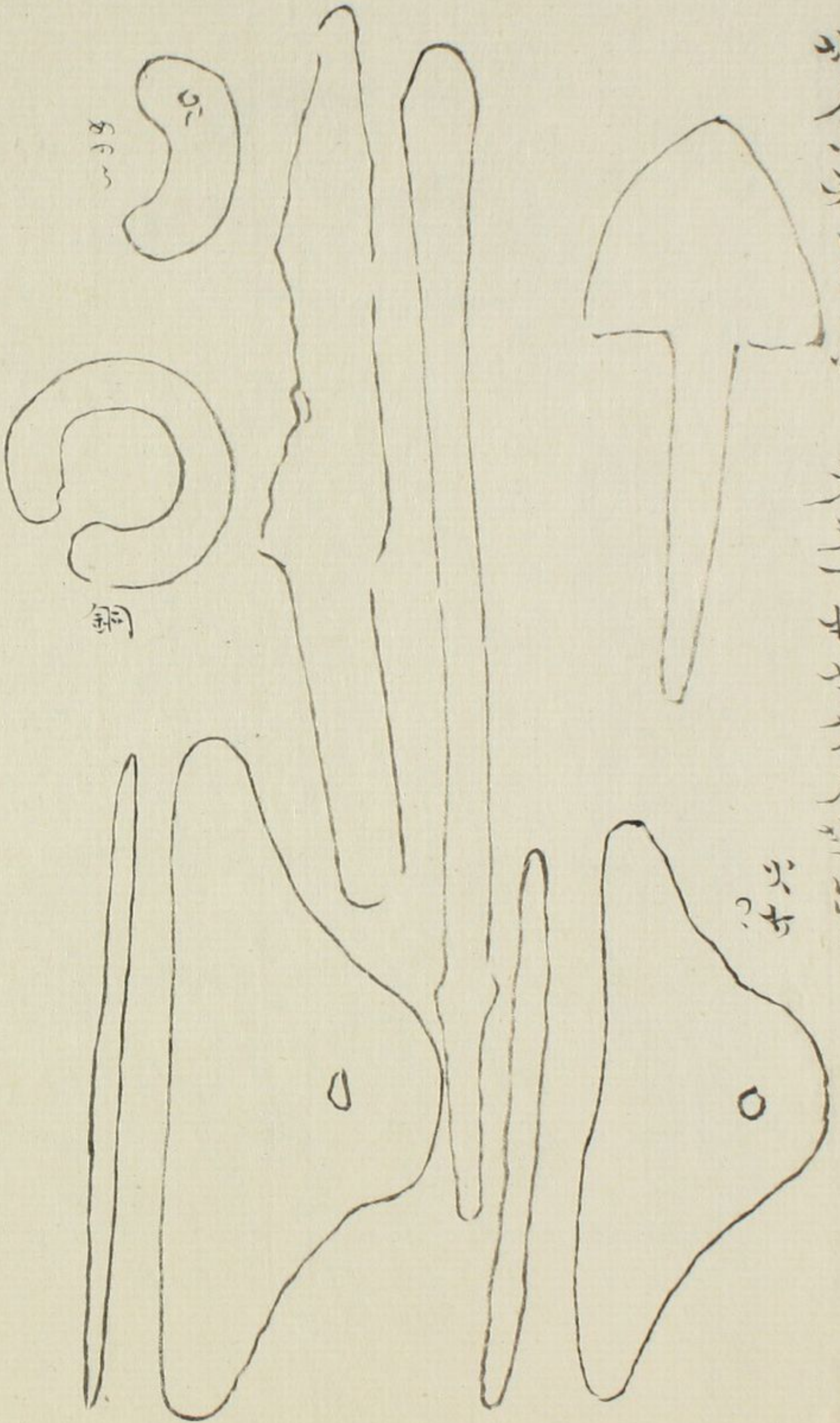


石の大小
酒折宮の神官飯田正美に作る

城屋所秋山氏藏

東光寺村北原石塚出土

火打



甲府山崎鍛冶所蔵
有直刀 鍛冶師 山崎 貞吉

山崎 貞吉 鍛冶師
有直刀 鍛冶師 山崎 貞吉

有直刀 鍛冶師 山崎 貞吉
山崎 貞吉 鍛冶師 有直刀



山崎 貞吉 鍛冶師 有直刀
有直刀 鍛冶師 山崎 貞吉



山崎 貞吉 鍛冶師 有直刀
有直刀 鍛冶師 山崎 貞吉

大蔵探定の碑

酒折宮に本所宮長助の櫻と山縣大蔵の櫻と碑あり山縣大蔵の碑文「東宮宮子の墓にあれと幕府を憚り名のあるところをけしきつゝまに河草よの草まあれがふらぬしおれり」

國分寺のさる

東江以那の國分寺に日蓮宗の寺あり本日午の遊所あり

おの

本日午の遊所あり本日午の遊所あり本日午の遊所あり

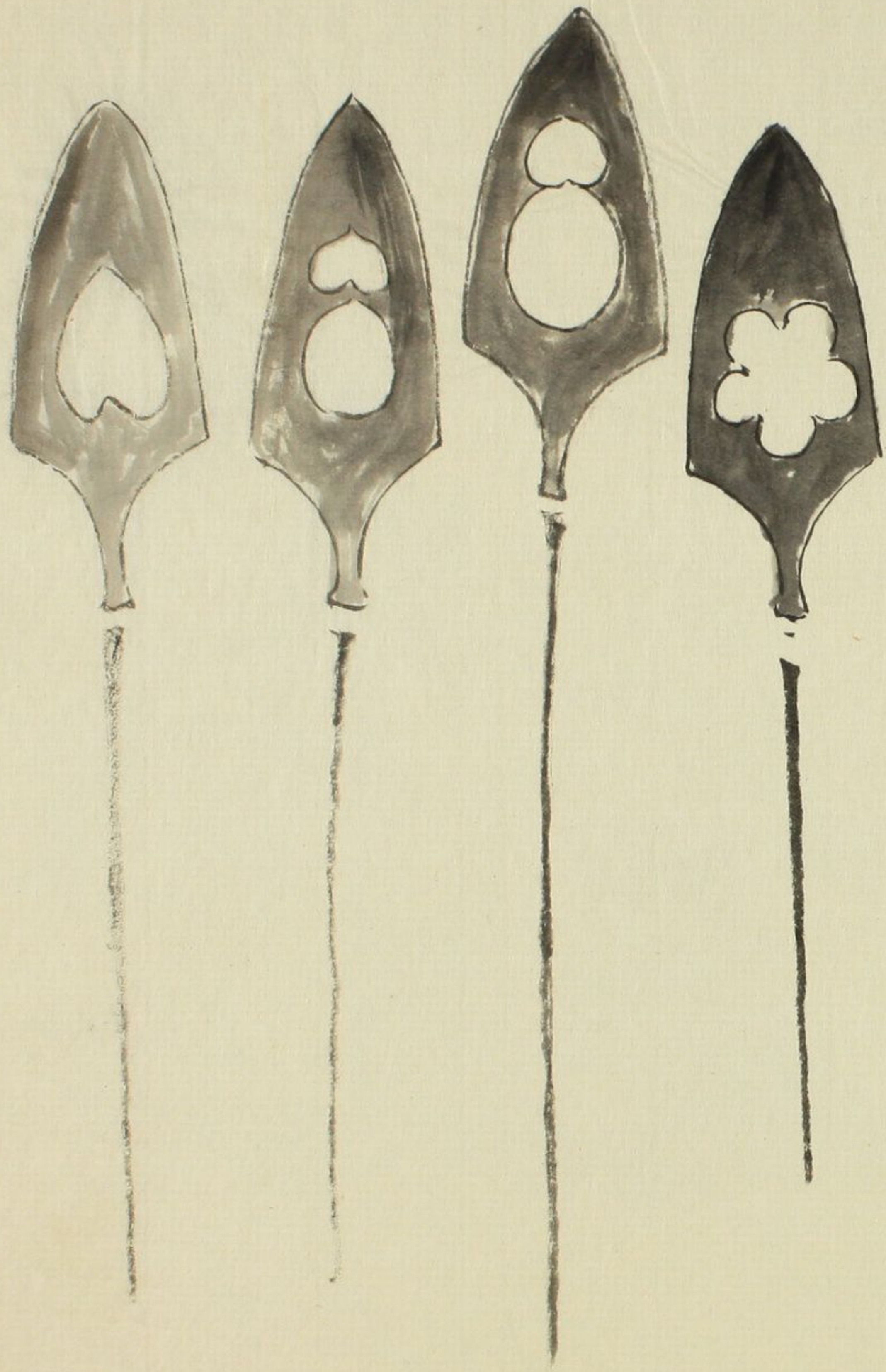
おの

中宮中宮の御殿あり中宮中宮の御殿あり中宮中宮の御殿あり

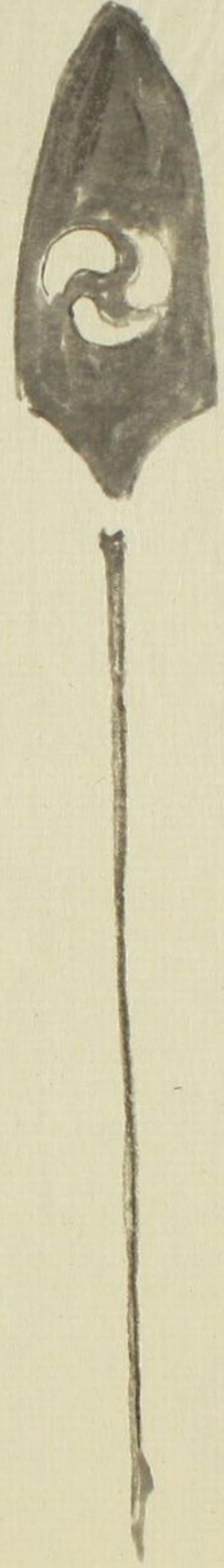
姫の井の古物

古宮中宮の御殿あり中宮中宮の御殿あり





古鉄



古城姫の井底より登見よんし茶湯の早武田氏の物と見
 る井底鉄丸の河の赤黒くまじりて腐る人柄物の如きもの
 の茶湯物物と製地也やう
 釘數十本出たり釘頭や曲てあ
 る其まじりあつて曲にちれり糸巻に糸巻りたる
 手鉄丸のみに錆白あつて昔の底より糸巻りに成りたる
 ちたつ其地白くまじりて糸巻りの如きもの河の早武田氏の
 武田社にありあり同社古鉄数本あり

塚元

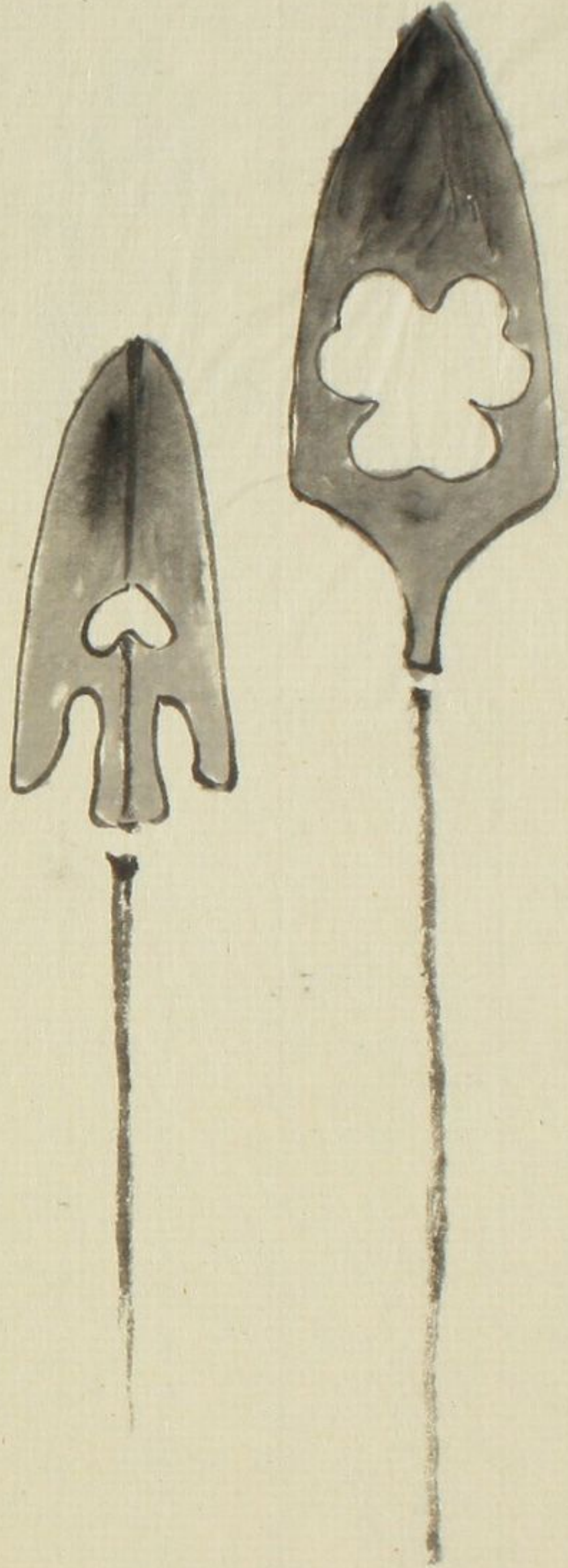
甲府と湯村
陸軍省用地
にあり古塚
元のはつて年
ついでついで
小松林塚
後の山まき
あけ
の山まき
中五人



素焼土器

すけり股銀二杯
中巨磨即鏡中
よりおちる素焼土器

甲府藏書



谷



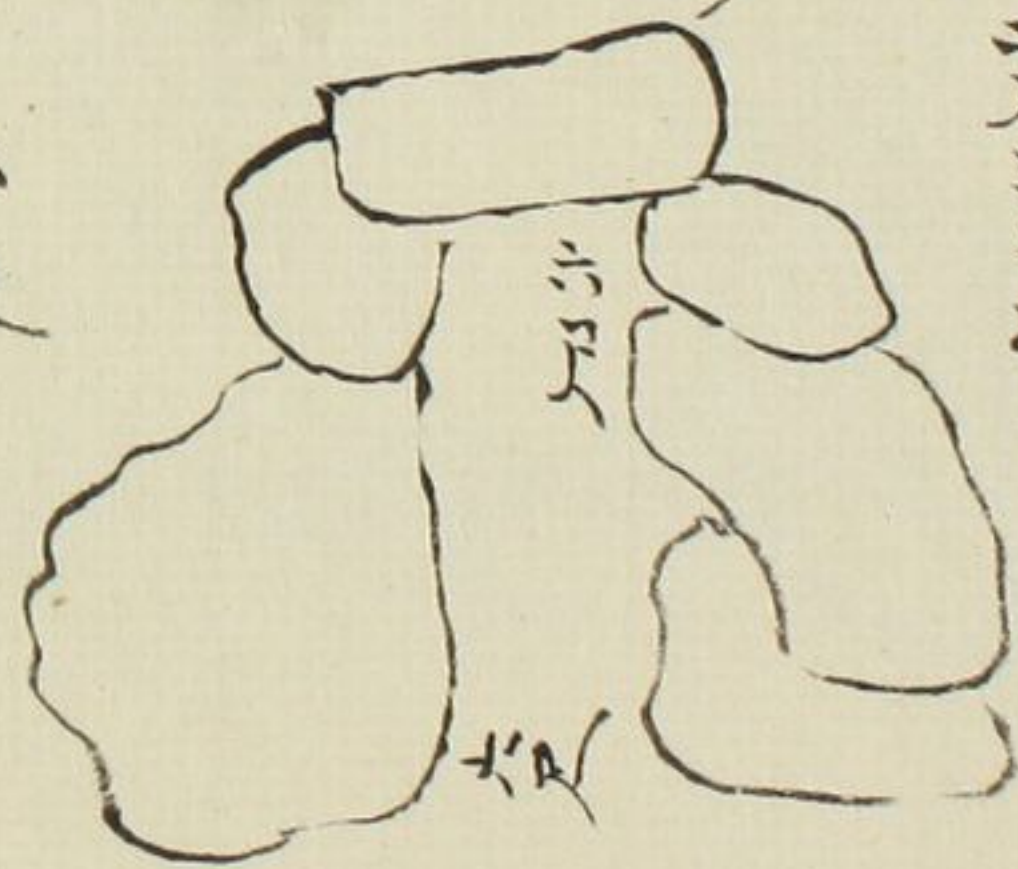
山一
山一

山一
山一

甲府五ヶ所塚村川塚宮金塚
塚止立枯大木三本あり



金塚の石垣

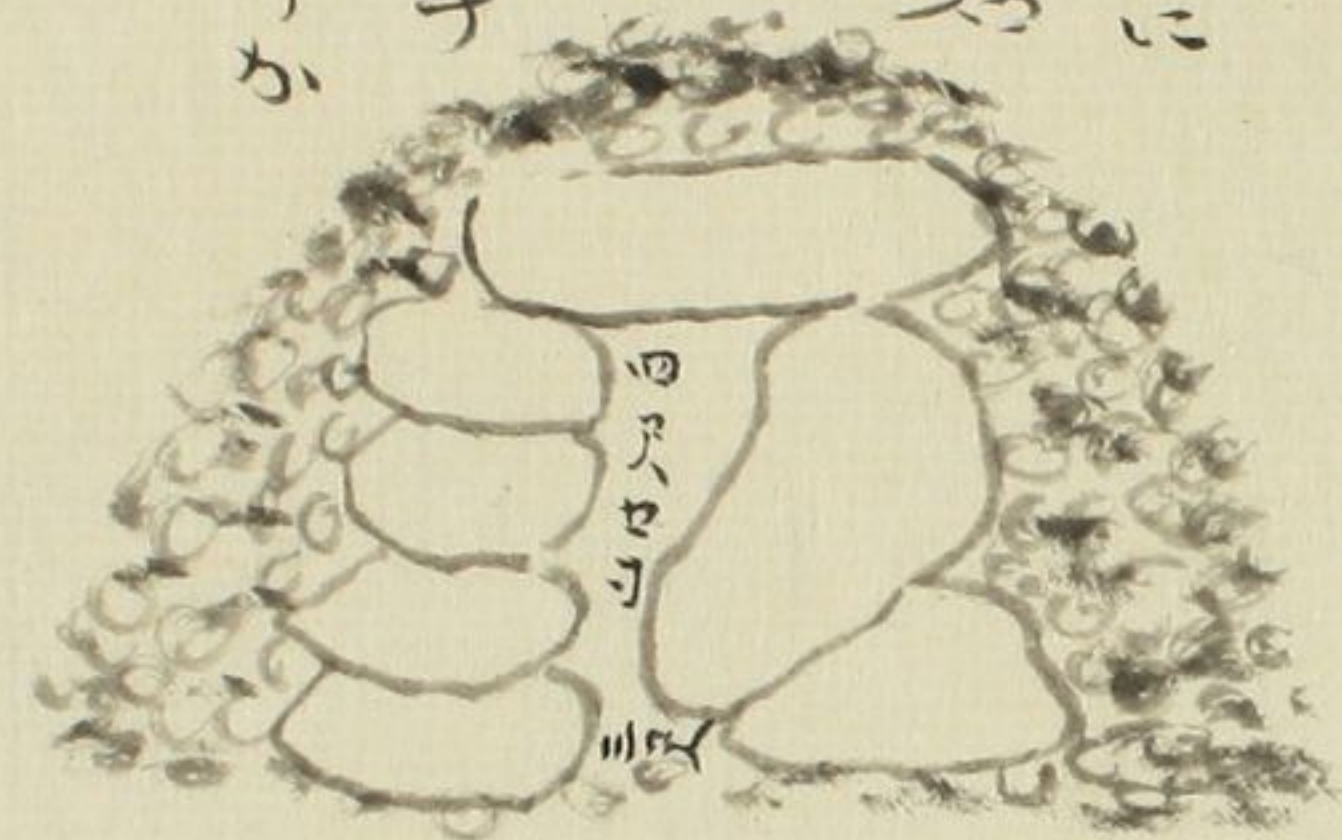


石長六尺あり中幅三寸
横中二尺三寸あり

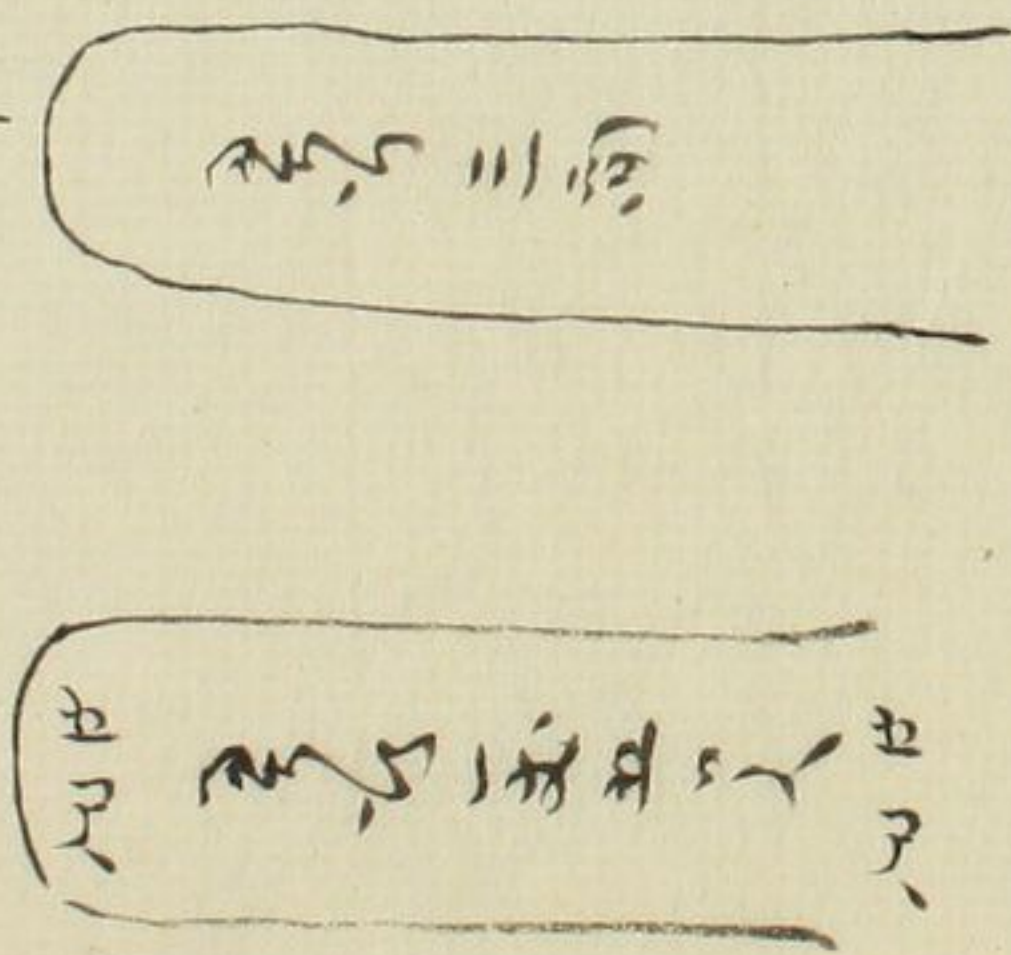
天井石三枚

石の九割は石垣の石に
中八尺の石の石の天井石
七尺

甲府五ヶ所塚村に
婦塚と云ふ石
塚二つあり
土をいれる石の
土の石あり
始て土をいれる
洋あり



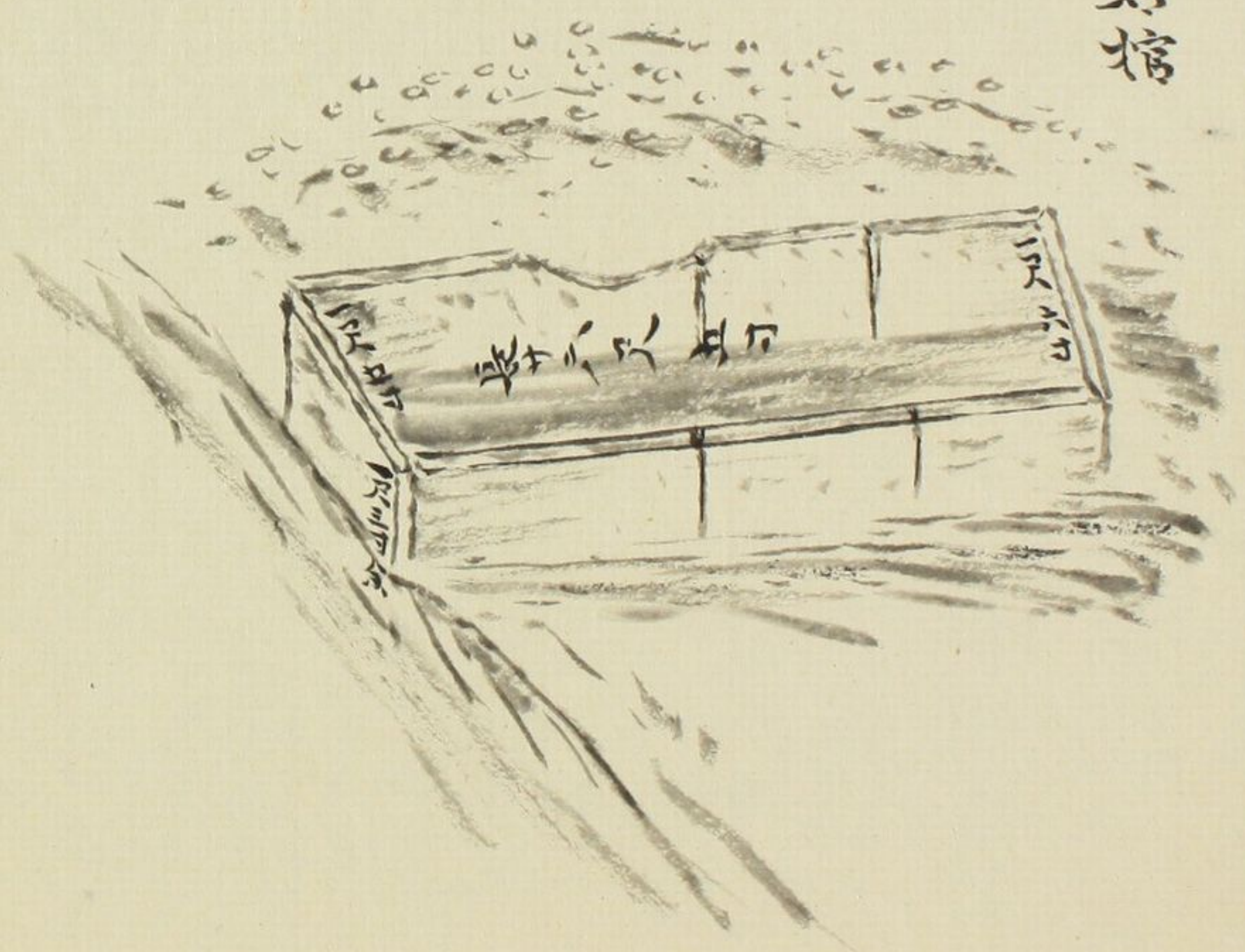
上図
天行



上図
塚の石

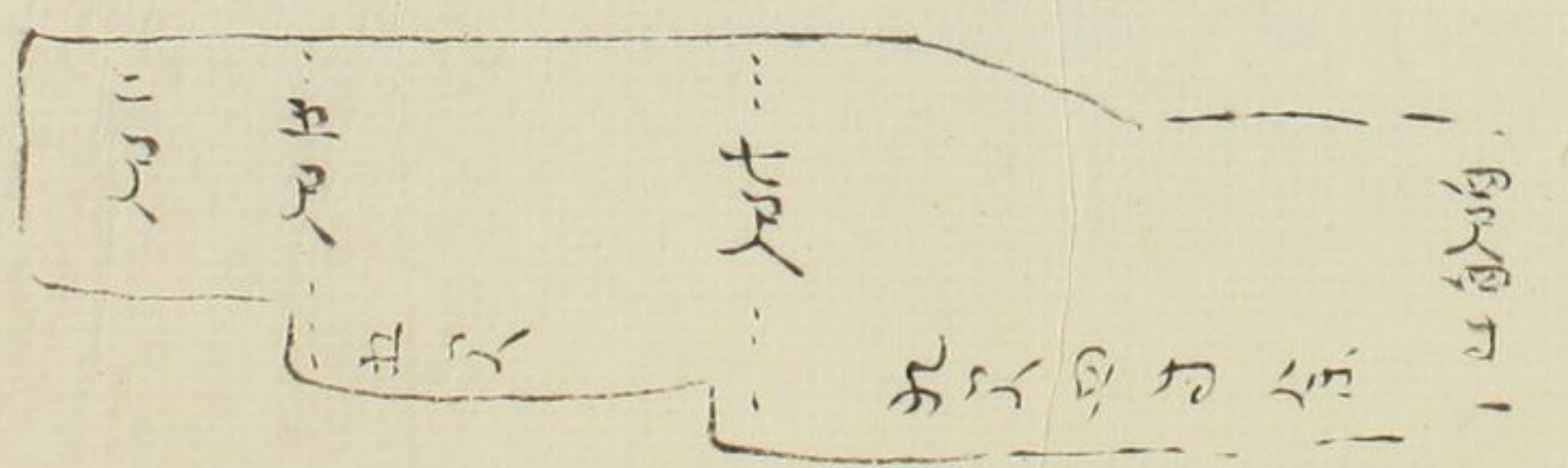
天井石三枚あり

湯村墓石塚 出た所、石棺
 へがらを併せて造る
 太刀及朱出たところを
 此石棺を見て寸又を
 横中一尺六寸と
 棺を



東山梨郡鎮目村石室

正石のつらみ



前合所



三三三
三三三
三三三

真行を失す
真平の交塔印
二二八九号
三三三三三三三三三
一八八三三

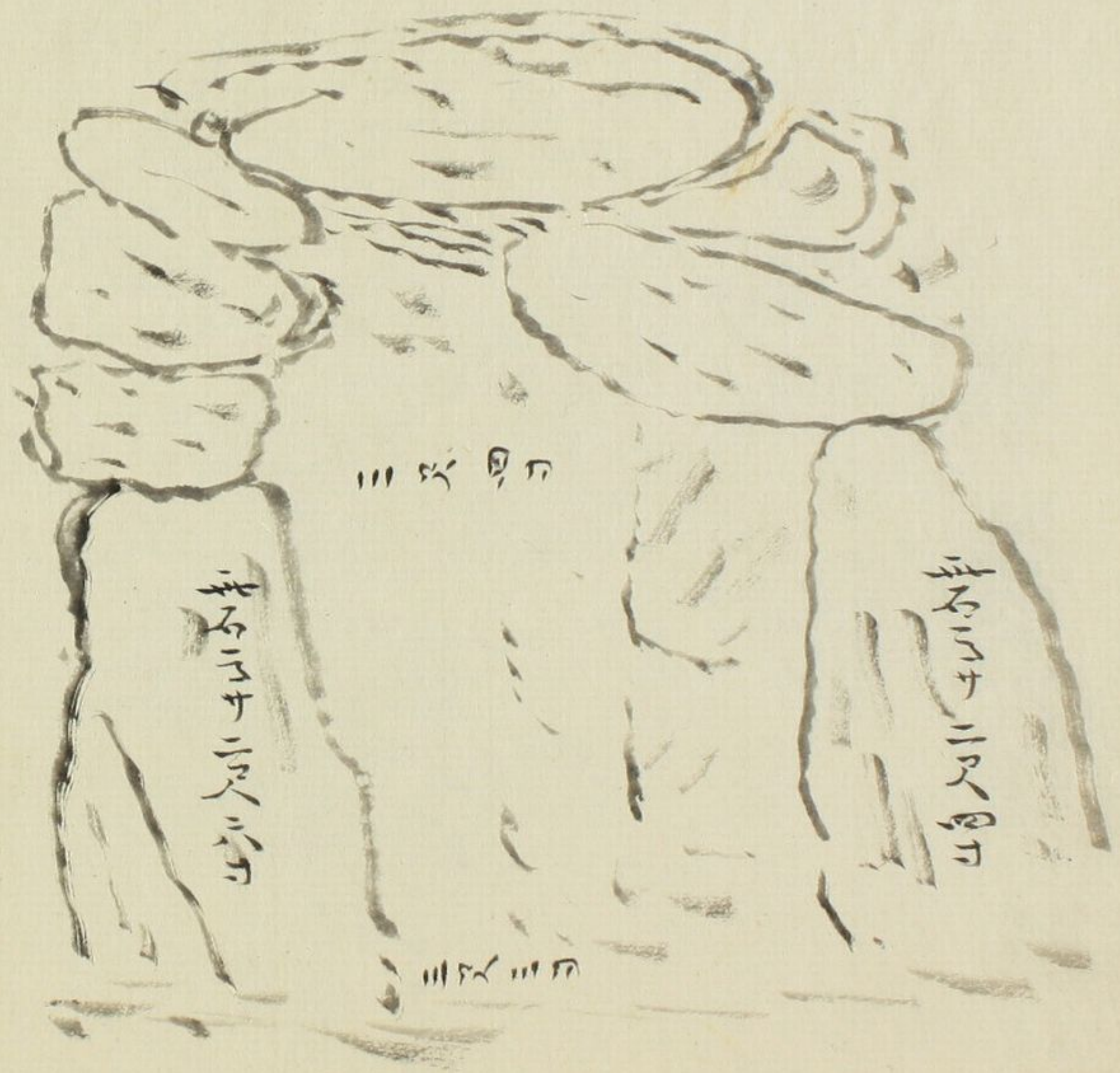
前合所



三三三
三三三
三三三

前合所

日ちらぬ入道
又三三三
五入三三

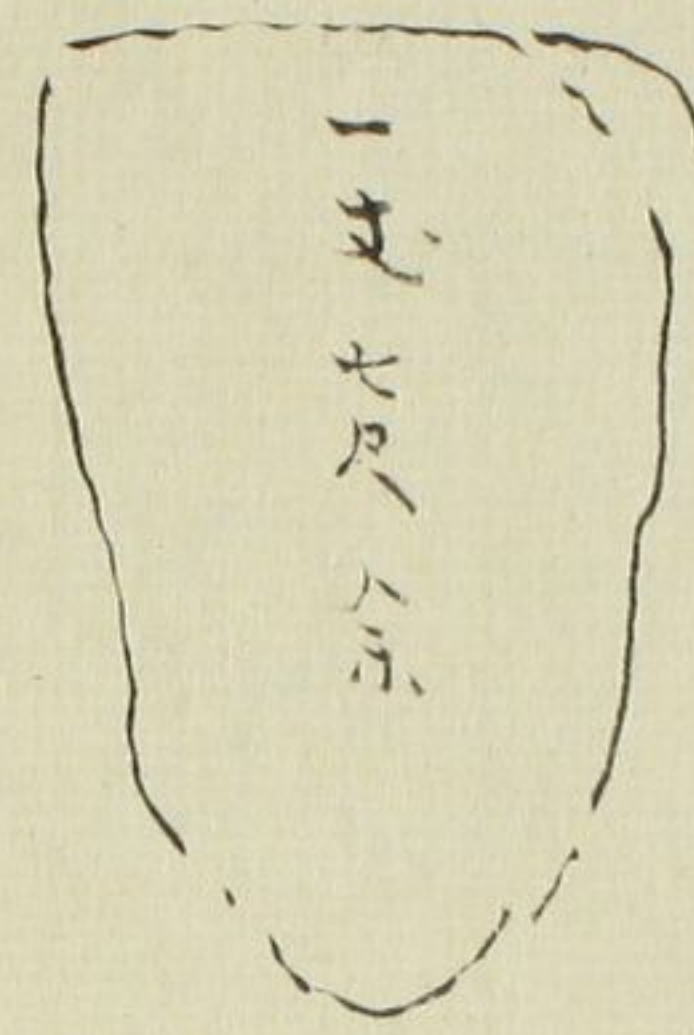


東山梨郡鎮目村

東山梨郡中
類三三三
石三三三
天井石の
七三三三
河の



東山梨郡日村山幡社下
 塚元石崩れありてあり
 昔塚の跡ありてあり
 九塚あり見せり



天井石

一丈石
 造り

天井二八尺
 一丈一尺
 八寸九尺五分



東山梨郡下の泉光園寺裏に塚ありきち敷の中あり
 塚あり石佛ニ伴儀ゾあり

入りて天井ありサハカ
 入りて天井あり高サ八尺五分
 入りて二丈五尺八寸
 入りて三丈四尺
 入りて三丈五尺八寸
 入りて南向き南東

東山梨郡日村山幡社内に石塚ありてあり
 積重ぬ穀木生長せり
 石見せり
 此の石の内に大石あり
 此の石の内に大石あり

東に梨野山日居村より
山手方の方往来より十合目
此の山の上に岡の如き丸い
塚あり周圍百餘程高きを
この上の山を登りて見ゆ

見ゆ
川塚

富士塚と名稱

さへ人遊ばしむし十年の如
きす井のふらふら見たい家の
つらと濁谷破片さへも
に登見せし



中巨勢郡龍王村慈徳寺あり
農家の前にあり塚あり

夏行六人
高 三人

半は弱れども穴あり



前田村燕窩寺東方山に海い

ち心にあゝ塚完

奥行三丈五尺

奥高サ四尺五寸

奥巾四尺

つのとこら筋にちる

穴まで五尺のつじ

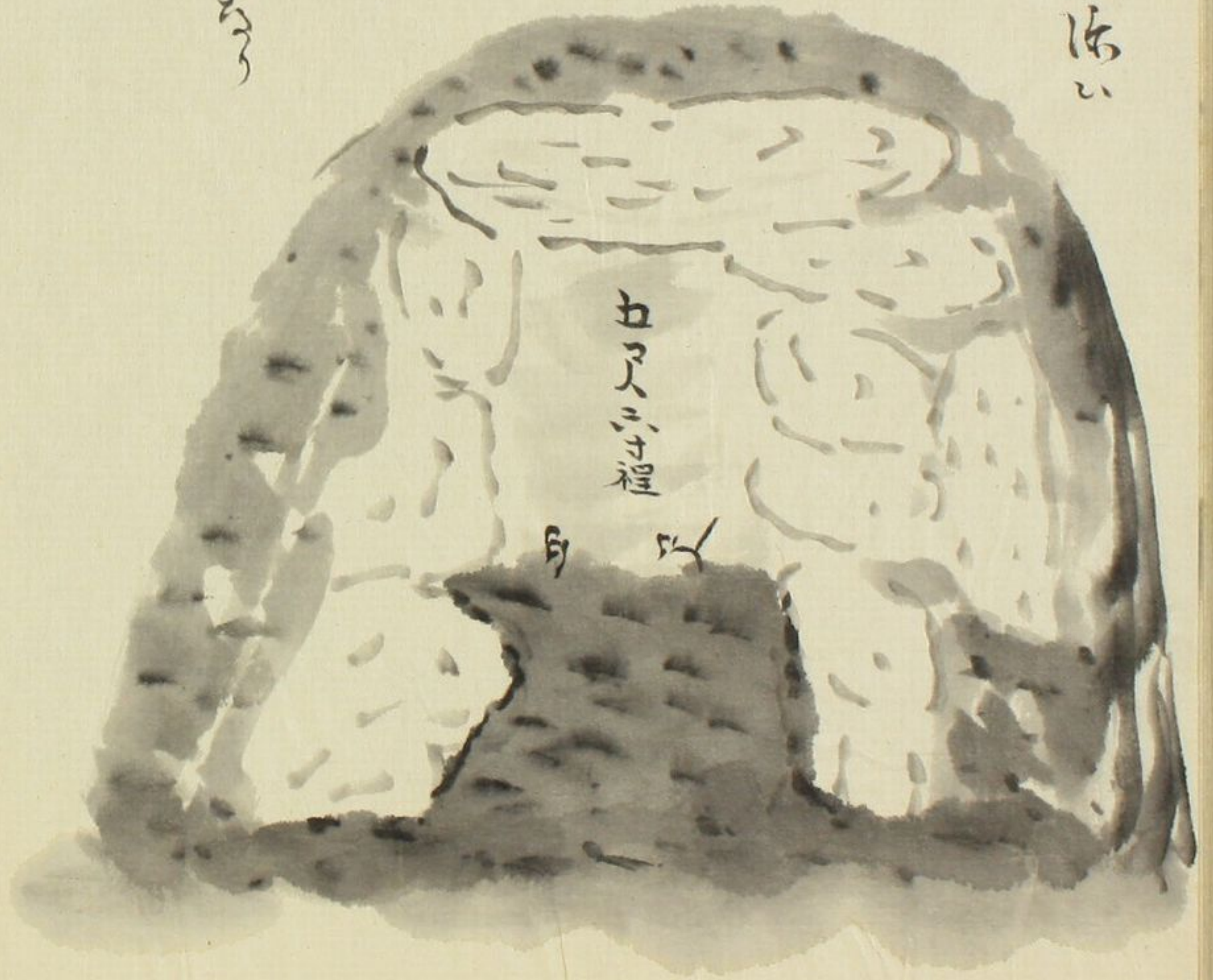
と思はるる也一丈と

はるれあゝ

天井石、みぬま

ちんち

奥の壁石、一尺五寸



五尺三寸程

月 以



高サ
五尺五寸程

龍王村

公園地

よ川に

よた岸

に完あゝ

多ら一両半程

お袋の横穴に

あゝ

中巨磨郡龍王原塚穴

口の高四尺五寸

巾 六尺

奥行 四丈四寸

天井 石四段

此穴の後方にまじり

の如くおぼしき穴あり

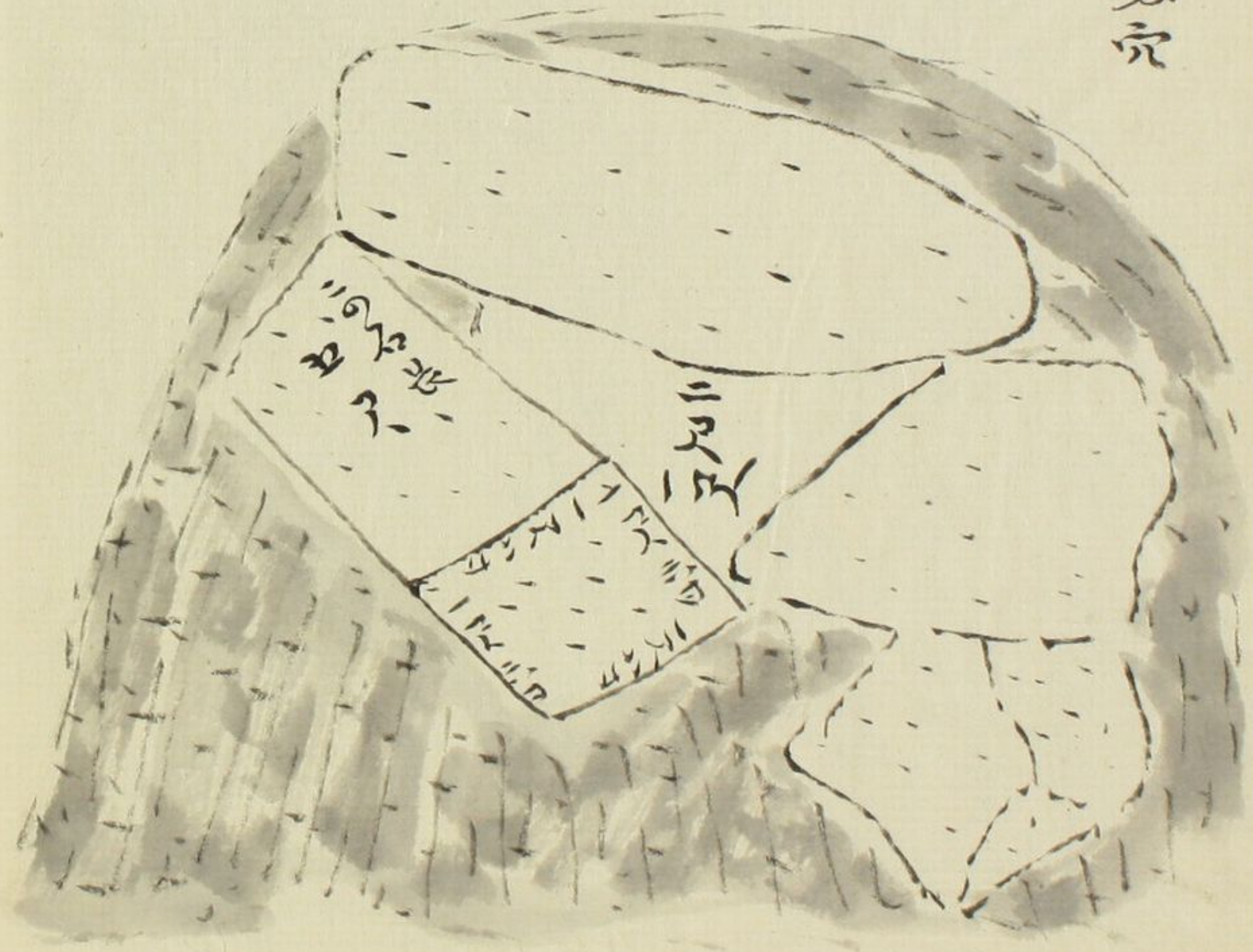
赤坂筋の社の上を

赤坂道の東方にあり

龍王原に此塚あり

此塚ありと見ゆべし

入口あり



中巨磨郡龍王原塚穴

入口 經 四尺

高サ 四尺

奥行 四尺

奥行 四丈四尺程

此龍王原に二

塚ありと

入口あり



東山梨郡上岩下村
 入道より向ふに
 ある石塚

石塚の石
 天井石五ツ
 奥三ツ三ツ三ツ三ツ
 奥三ツ三ツ 五尺五寸
 穴中より石の群の石
 破片々拾ふ

此等土田の石の見



上岩下村
 奥高サ
 三尺八寸
 奥終
 四尺五寸
 奥行
 五尺八寸
 天井石
 五ツ



上岩下村
 石塚の石
 奥三ツ三ツ三ツ三ツ
 奥終 三尺八寸
 天井石
 二ツ



夕狩沢下、途の右側に
ある石室

元高サ六尺余

ハ長七尺五寸

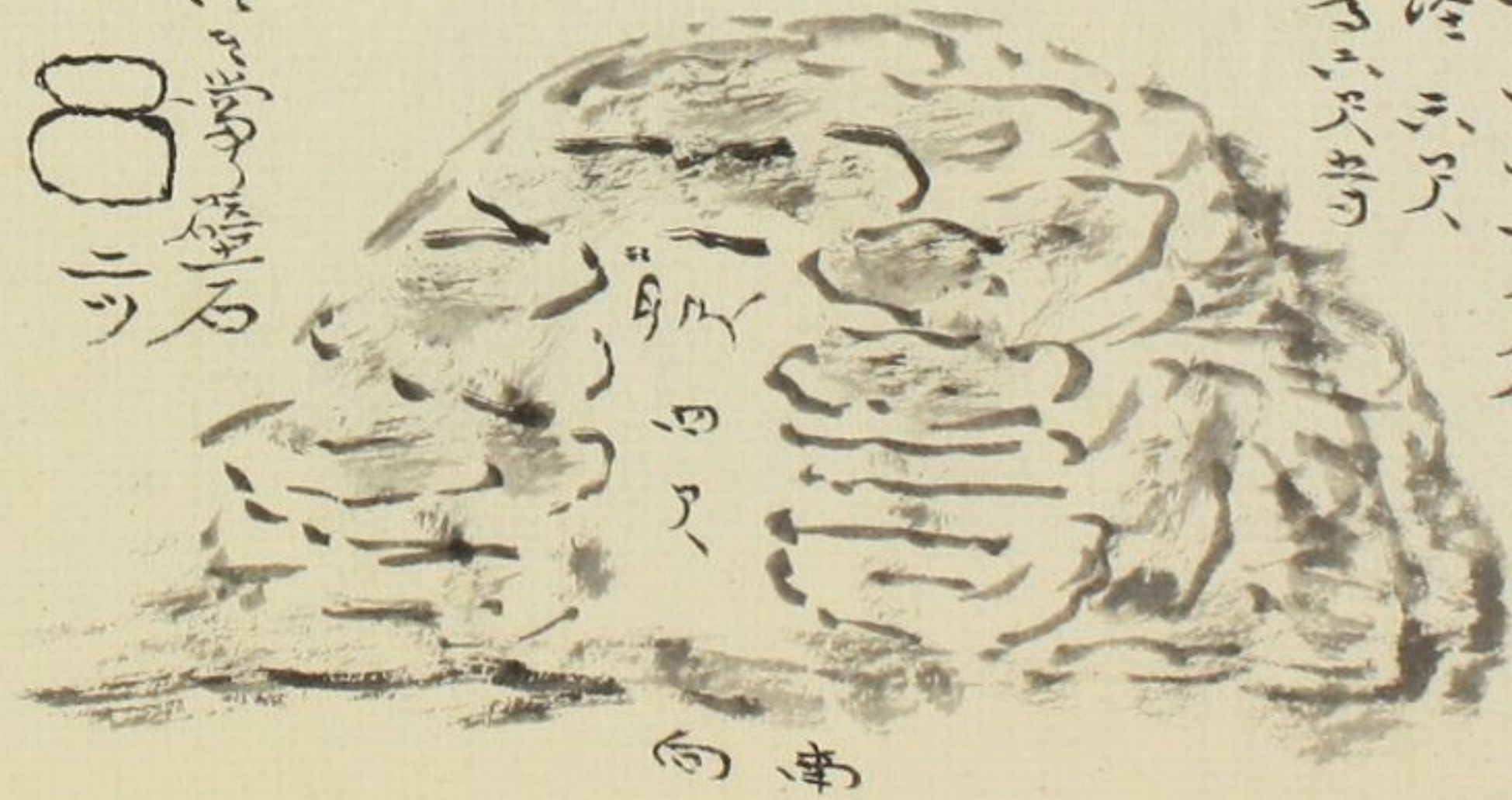
奥行四丈

下栗下村神社
裏及松林中
と三丁程松林を
行くと塚あり



元高サ六尺余
元長六尺五寸

石室
ハ長六尺五寸



南向

夕狩沢下、塚の樹あり
三高申石塔より此塚の
元高サ六尺五寸
元長六尺五寸
天井石四ツ
ハ長六尺五寸
ハ長七尺五寸
奥行四丈



石室
ハ長六尺五寸

東山製法石

三層石
頭
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ



石

三層石
頭
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

天月石
四枚



古石塔

甲山江町 寺塔也
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

前司塔にあり

中巨三層石
八田山長谷寺にあり
慶長十二年大業妙興
成就の碑

大業
奉請請大業妙興
願主権大僧部法
慶長十二年大業妙興

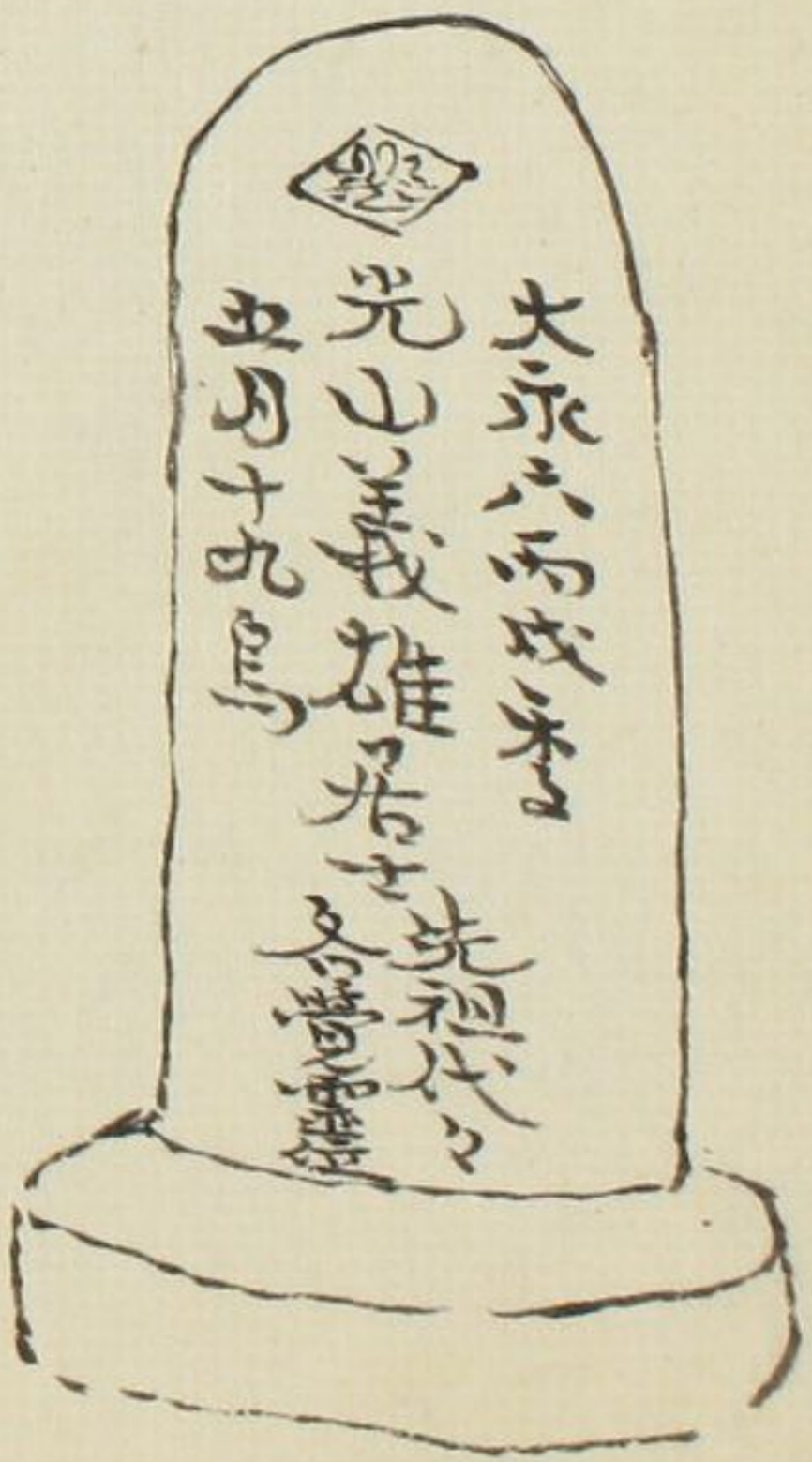
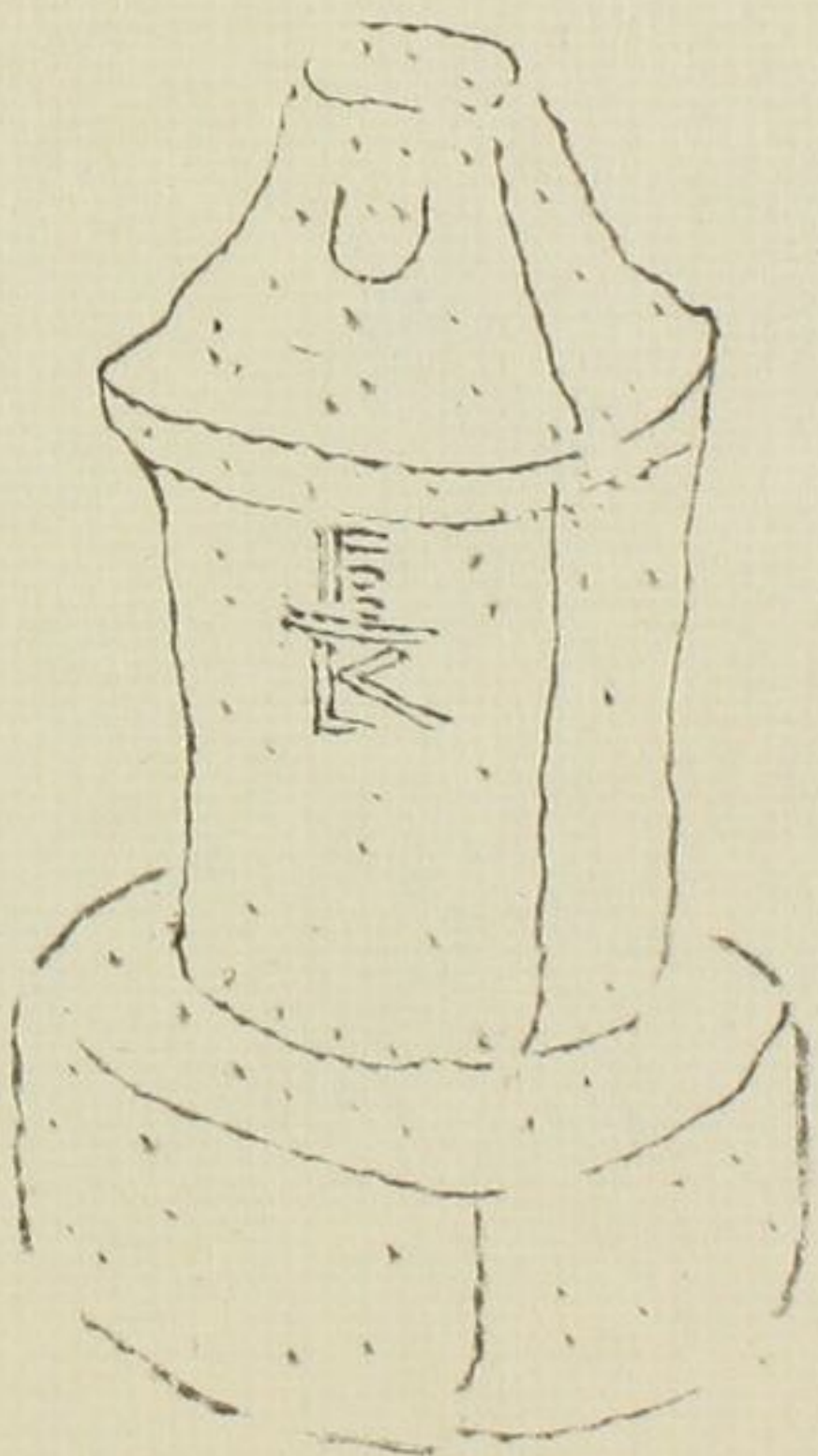
天正十一年十月廿二日
大業妙興
元禄二年七月廿五日

大業
天正十一年十月廿二日
元禄二年七月廿五日

甲府和田村法泉寺中にあり
古墓石数ヶ所菊花の地に
見ゆ

長岡

甲府愛宕所あたりに神社あり
一石にて築かれたる形あり
石長坂長岡の墓石と云ふに
まゝありて神と云ふは
あり長岡の墓石と云ふは
一たゞありて長岡と云ふは
長岡と云ふの墓石と云ふは



首塚

甲府法泉寺武田勝頼公首塚

樹木二本生出てあり自然石の
寶塔石ありとの首塚と云ふ



山縣大蔵の墓

中巨三督郡龍三村金剛寺墓也、あり山縣大蔵の墓
墓石高サ二尺二寸五分横中九寸五分墓石三段とて二尺
東京四谷舟板橋丁牧大の寺院墓也、ありの映字作筆
字

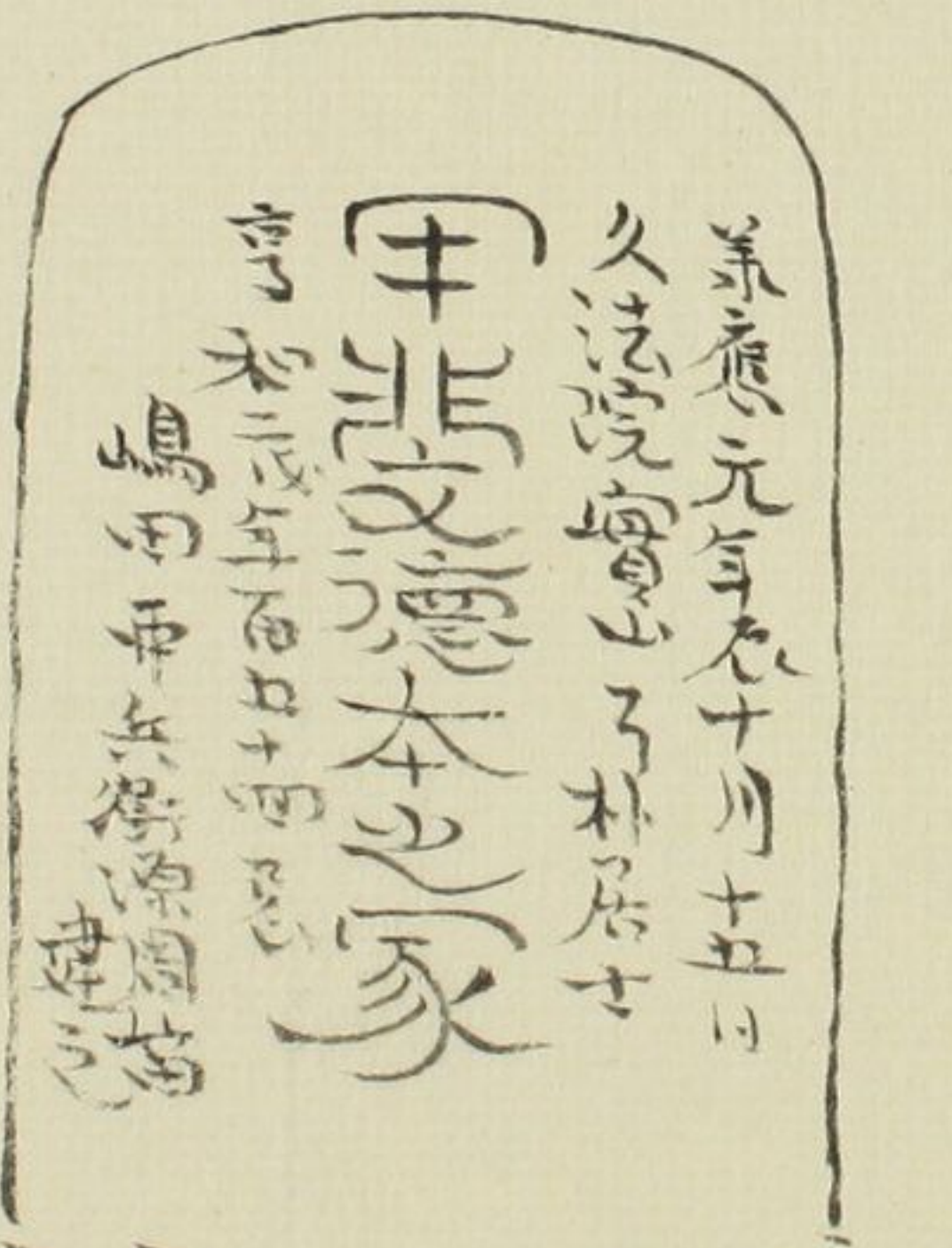
廿五年四月廿一日



源昌貞碑

甲斐徳本の家

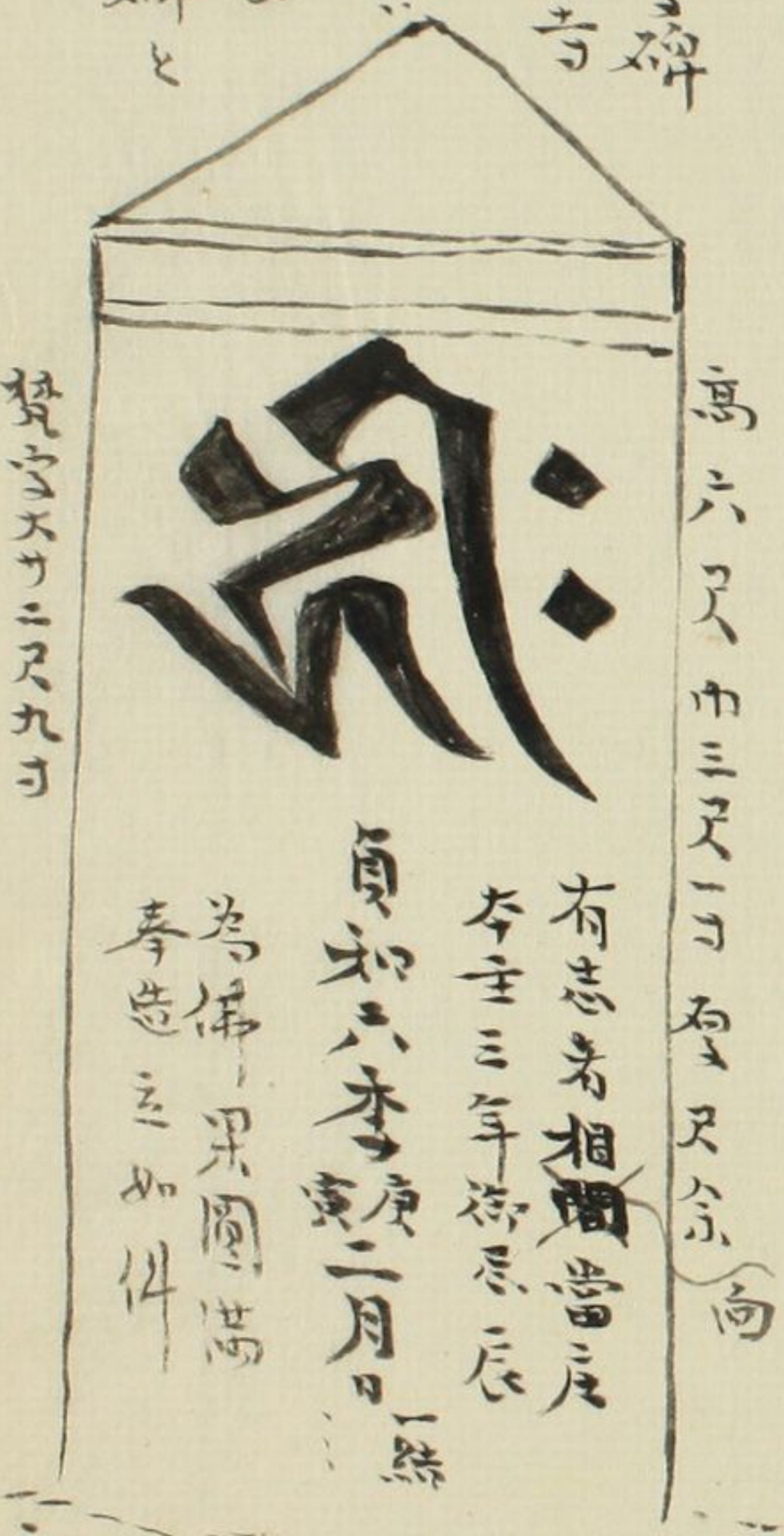
上府中東沼邊墓也、あり
甲斐徳本の家
嶋田の家、代々徳本徳末の
墓を貴き、者なれば、徳本の家
建たる墓なりし



義應元年十月十五日
久法院増山了朴居士
甲斐徳本の家
享和二年百五十四日
嶋田甲兵衛源昌貞

梵字の碑

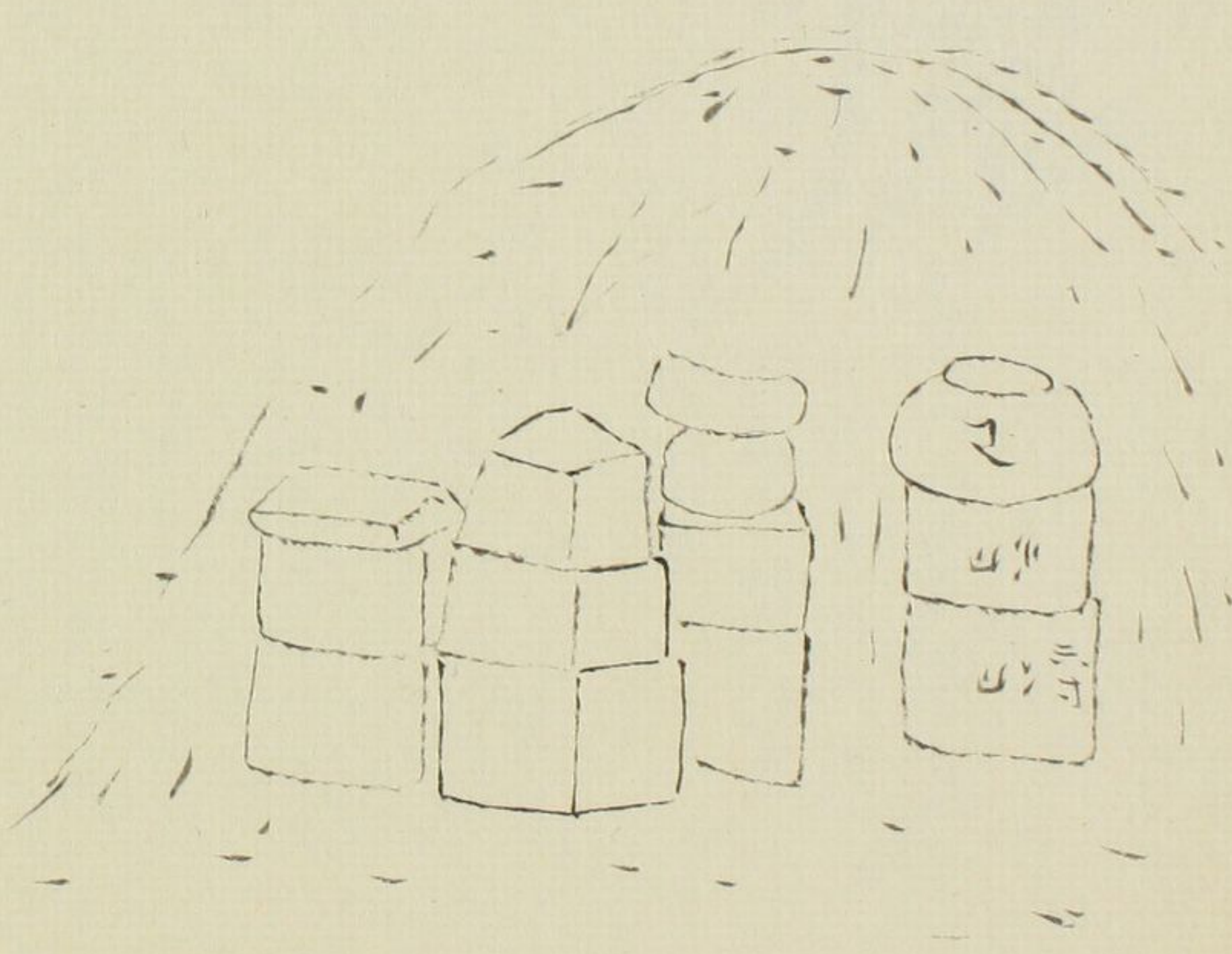
湯村の梵字の碑
福田山福澤寺
地藏堂裏山
にあり石質
御影石文字
彫刻梵字の碑と
同し



梵字大サ二尺九寸

高六尺八寸三寸五分 石五尺八寸 向
有志者相贈當辰
本主三年癸丑辰
貞和六年二月一日
為佛果圓滿
奉造之如件

東山梨神社
東北ノ邊ニ有リ
墓也ニ古塚あり
即チ古五輪塔也
世古也
同右ノ所ニ有リ
古五輪塔の形



女中平の一日中守中ノ馬路の蛇の見舞ひの事
とこの遠東年並草雜記に云ふ如く此の蛇を講女たる女中平
巧に飼ふ事あり見せしむ事あり一錢を投じし事あり
た見世物なり云ふ事あり一尺程の馬路蛇を飼ふ事あり
細蛇を飼ふ事あり弱小な蛇一頭を飼ふ事あり力の強
と見舞ひの事あり棒の先に玉の汁をつけ蛇の口のあたりに
ゆるがせにせし事あり班文あり腹面白色のみ見せし事あり
は蛇飼ふ事あり
甲府に在り中満蔵院に蟻の塔三本あり仙段の下に石棚あり其
中巨摩郡在家村に在りては此の蟻の塔と云ふ事あり
中巨摩郡在家村に在りては此の蟻の塔と云ふ事あり

城屋町古府の山城の見所の名ありて、
和国平所古府の山城の城に依りて、
柳町甲陽軍鑑に柳小路の名ありて、
業務に依りて、

業務に依りて、

魚所 魚所 工所 工所 桶屋所 桶職所

鍛冶所 鍛冶職所 紺屋所 紺屋所 細工所 大工所 大工所

白木所 白木と白木と、
白木と白木と、

住女所 住女所

代官所 代官所 近習所 近習所 御崎所

愛宕所 御崎所 御崎所 御崎所 御崎所

百人町 百人町 百人町 百人町 百人町

必形 必形 必形 必形 必形

金手所 金手所 金手所 金手所 金手所

連雀所 連雀所 連雀所 連雀所 連雀所

一木所 一木所 一木所 一木所 一木所

袋町 袋町 袋町 袋町 袋町

と と と と と

若松所 若松所 若松所 若松所 若松所

若松所 若松所 若松所 若松所 若松所

若松所 若松所 若松所 若松所 若松所

櫻町 柳櫻をこころにまがての歌文に縁をこめて桜木一本とさるる人

春日町 花に縁ある春の日も名よと

弥生町 春の夜半にこころをこ

錦町 見ゆせし柳桜をこころにまがて都を春の錦ちりける
の歌をこころに縁あると錦町と名よ

柳生町 花に縁あると名よ

橋町 桜と柳のちりてり(橋の縁の名よとさるる)

紅梅町 桜に對する名よ

朝日町 桜花の縁ある

其也花園町 日向の柳をこころにまがてる名よとさるる

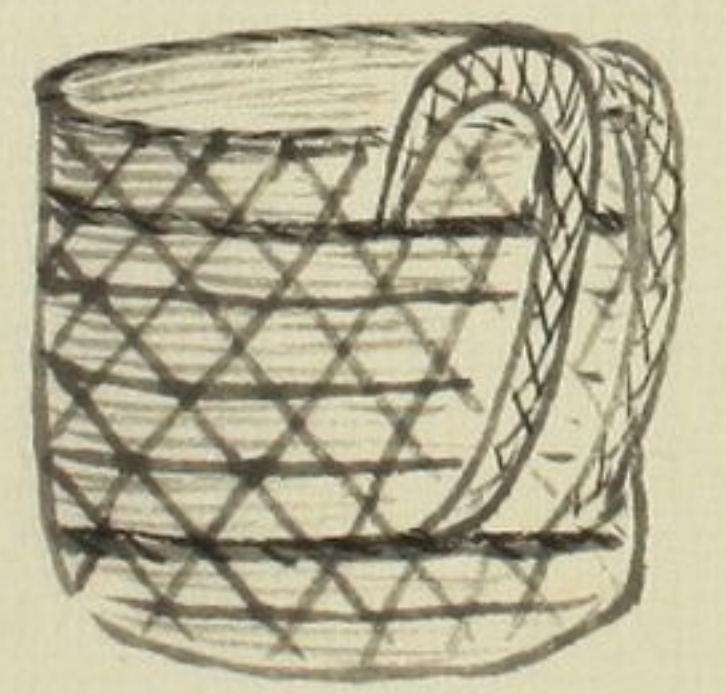
とせしもの物に初年にもまがてる名よ

三喜町 大町の柳を祝言をこころにまがてる名よ

三喜町の町名は柳の種敷をこころにまがてる名よ

郡内町の町名

郡内町の町名は二重にまがてる
荒るてまがてるもの
たの荒るるかく編みたるあり



初代市川團十郎

初代市川團十郎「市川大村の市川の生れとも東山梨町の市川の
者ともいふにあらざるが三井の紋をつけたる名よとさるる
の狂言をせし電光りの模様衣裳を起して初は命かへの如き
を後に回に改りしと説くあれとる」團十郎甲冑の者甲州甲

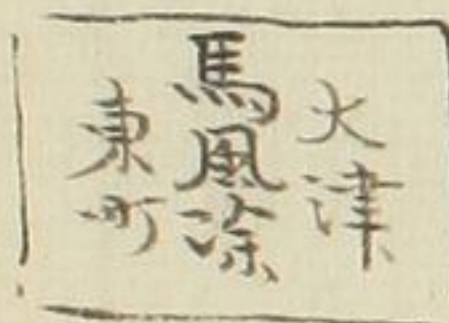
の三井も紋にとりたるもの

市川團十郎の母
とれたんがな

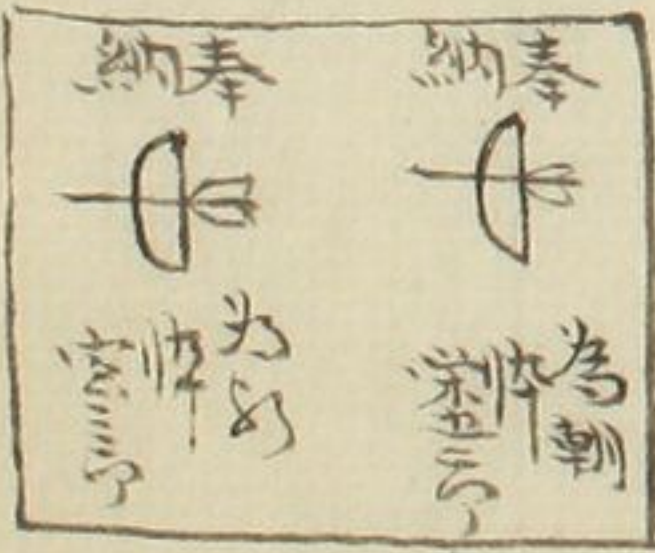
町田町 柳



中府 止

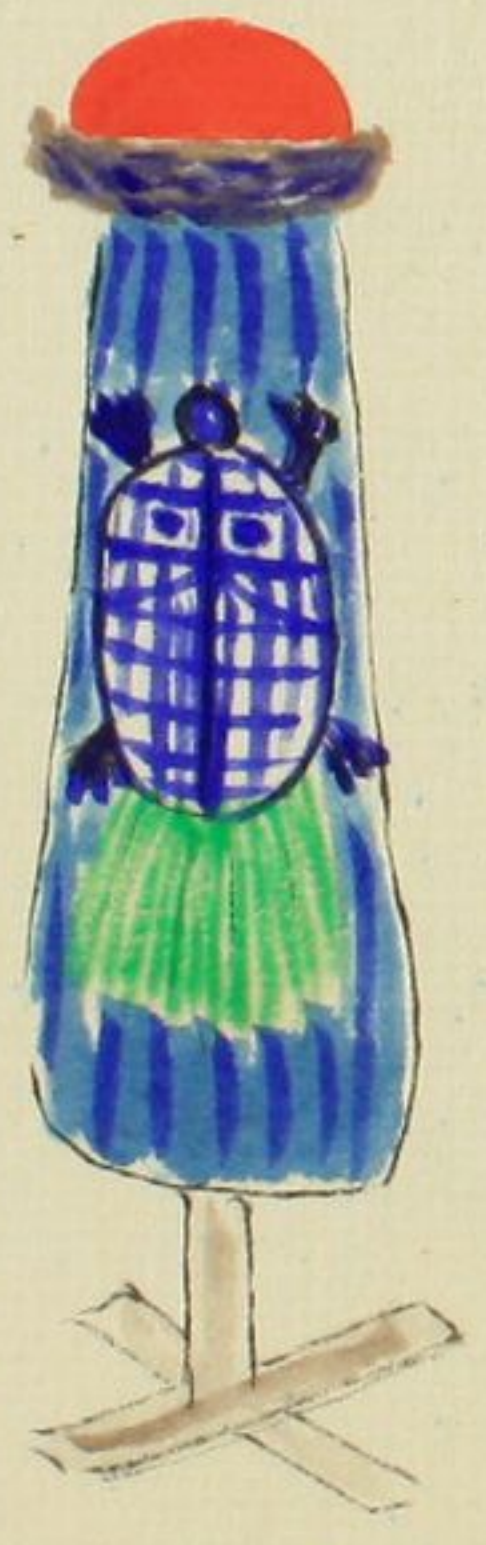


橋町 柳の
とせしもの
とせしもの



松の葉
松の葉

甲加の松の葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の
松の葉を用ひ用ひするもの先あるもの食ひするもの
北田中の松葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の



松の葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の
松の葉を用ひ用ひするもの先あるもの食ひするもの
北田中の松葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の

松の葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の

松の葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の
松の葉を用ひ用ひするもの先あるもの食ひするもの
北田中の松葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の

松の葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の
松の葉を用ひ用ひするもの先あるもの食ひするもの
北田中の松葉の少るもの松を丸大にして月の松葉の葉の

松の葉
松の葉

甲斐の爲葉下巻終

通讀のしるしに印を書けよと

編者山中氏より望まわす

坪井ふむね

本がれしと學びし海を舟す

あちばしんがしんがのしんが

加

都多那村

。向ふの山で竹まきや

誰れだ

源次郎さまが次郎さまか

か

ようたら茶とあられ

茶の茶がーちぢぢぢぢぢ

せむ

いせせいせい

納言

由を

由

せむーらーらー

木

ささ

ささ

せむたう

あせむか

あせむか

あせむか

たうが 庭のゆゑ

大いさい

せむせむ

あせむか

あせむか

ハシコカ

あせむか

回子

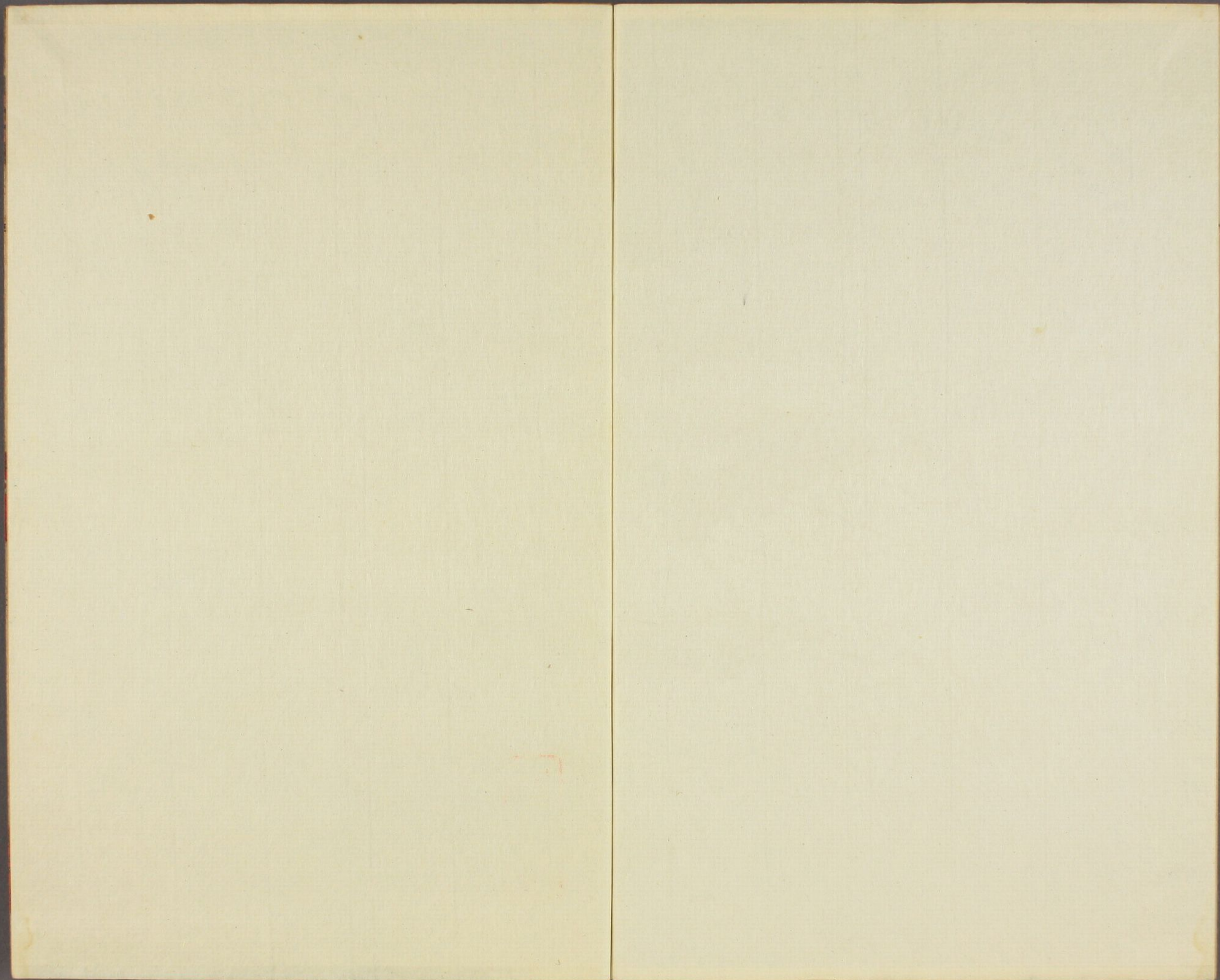
。ラ子ニジヨ

強次郎

松下駄は

。ラ子ニジヨサームノタロニサームノメヨメニユクトテ

十ヨ



皇世帶式

第三寶皇世帶式

皇世帶式

